

シグマTECH

中学受験

体験記

2024春

生徒・保護者の声





Aさん保護者さま「今の息子にあった受験」

進学先：慶應中等部

息子は幼稚園の年長から花まるに通い始め、Think!Think!、スクールFCと、7年間吉祥寺教室でお世話になり、先生方にたくさんほめていただきながら成長しました。

◆FCに入って

3年生時に受講していた Think!Think!が終わるタイミングで、花まるかFCのどちらに進むかを決める際、体験授業が楽しかったということもあり、FCの小4総合コースに進みました。

ところが、2月にスタートして1か月足らずで「FCは楽しいからやめないけど、友達と野球がしたいから、FCには週1回だけ通う」と言い出しました。この頃の息子は、3年生の終わりに始めた野球に夢中になっていました。

私は中学受験について詳しくはありませんでしたが、4年生から4教科というイメージはありましたので、息子には受験は難しいかもしれないと思いながら、H先生に相談をしました。先生の回答は「とりあえず週1日、算数と理科をしっかりとやりましょう。無理に週2日連れてきたりしないでくださいね。」という、意外で我が家にはありがたいものでした。先生のアドバイスのおかげで、4年生は週1日、前向きに通塾することができました。

しかし、4年生が終わる頃には、週1日しか塾に通えない息子が5年生になって3日も通える訳がないと心配し始めました。しばらくして吉祥寺教室にシグマTEC

Hができるというお知らせがありました。本当に良いタイミングでシグマTECHに入れば、息子は受験をあきらめていたと思います。

◆5年生からシグマTECHへ

シグマTECHに入れたため、6年生まで通塾授業1日、自宅でオンライン授業2日のペースで受講でき、本人が好きな野球も6年生の9月頃まで続けることができました。

しかし、5年生になると急に課題が増え、毎月テストも行われるようになりました。初めの頃は息子も私も要領を得ず、復習や×解きもできず、課題を終わらせるのに精一杯で月例テストを迎えていました。

その初めてのテストのとき、息子は「宿題が終わっただけで、テストの勉強も何もできていないのにテストなんか受けたくない!」と泣いて寝室から出てきませんでした。

「今回は初めてだし、これから勉強の仕方を考えよう」と何とかなだめてテストは受けましたが、息子とスケジュールを考えて軌道に乗るまでに3か月くらいかかりました。

その後、要領を得て、ほっとした頃から算数が難しくなり、H先生に相談させていただくことが多くなりました。Comiru や面談で都度ご対応頂き、特に5年生の終わり頃頂いた「予習シリーズの例題類題をすべて解きなおす」というアドバイスには息子本人も納得して取り組み、その後の算数が楽しくなるきっかけになったように思いました。

それまでは、算数の課題に取り組むことにやや後ろ向きでしたが、ある程度の量の問題に取り組むことでわかる問題が増え、楽しくなってくることを体得したように見えました。その後も算数で立ち止まると、同じように乗り越えていきました。

志望校については、見学や体験授業に行った学校のなかから、本人が気に入った学校を第一志望に考えていました。

学校の雰囲気も良く模試の判定も届いていたので安心していましたが、6年生の夏期講習が終わる頃に本人が「第一志望は慶應に変えて、慶應で野球をやりたい」と言い出しました。

息子の偏差値はまったく届いていなかったため、H先生にこれからでも目指せるのかを相談しました。「慶應を目指すことで本人のモチベーションが上がるなら、いいことだと思います」と言っていただいたので、志望校を慶應中等部に変更しました。

まもなく過去問対策が始まりました。慶應中等部の一次試験の合格ラインは8割以上と高得点勝負だと聞いていましたが、初めて過去問を解いたとき、算数に関しては時間を延長しても半分しか得点できませんでした。

しかし、息子は4科目解き終わって「慶應の問題っておもしろい!」とっていました。慶應の問題を解いたあとはいつも「今回もおもしろい問題あったよ、みてみて」と私に教えてくれました。合格ラインまで点数を上げるのは大変だけれども、息子と問題の相性はいいかもしれないと感じました。

とにかく算数を上げようと、算数に力を入れて学習していました。そのなかで、塾がない日でも質問ができる夜テックはとてもありがたかったです。多いときは毎日のように質問し、その度に対応してくださる先生が、質問しに来たことをほめてくださったので、息子は質問することにまったく抵抗がなくなったと思います。

ほかにも息子は歴史が好きで、社会の授業前動画を毎週楽しみにしていました。動画を観て、授業を受けてくると大半の内容は頭に入っているようで、さらに社会が好きになったようでしたので、6年生の後半は息抜きに社会に取り組んでいました。

冬休みから直前期まで、慶應の過去問を含め、いままで以上に頻出分野の算数を解いていました。受験前に疲労がたまりすぎないように公園で野球をしたり、慶應の二次試験の体育実技の練習をしたりしてリフレッシュして、睡眠時間も長めにとっていました。

◆受験が始まる

冬期講習が終わり、1月校が始まりました。

1校目は地方校の首都圏入試でした。会場が慶應ということで会場慣れのために受験しました。息子もいつも通りで、模試に行く感覚で受験できたようでした。

2校目は埼玉校でした。見学に行っていないでしたが、自宅からも通学できる立地で、息子が楽しく過ごせそうな学校という印象だったので、2月校がすべて不合格だった場合は、こちらに進学しようと考えていました。

こちらは1月10日と12日特待試験に出願していましたが、10日の試験を終えて合格をいただいた息子は「疲れちゃったから、12日は受験しない」と言いました。無理をさせて体調を崩したらいけないと思い、12日は受験しないことになりましたが、いつも通りに見えたけれど、10日の試験は緊張していたんだなと思いました。

同時に、埼玉校1日で疲れてしまい、2月受験が乗り切れるのかと不安に感じました。

2月1日、その不安が的中しました。

2月1日の午前中は中央大学附属中学校を受験しました。こちらは問題の相性もよく、本人もこの合格が出たら2月2日はどこも受験せずに3日の慶應に備えると言っていました。

しかし朝、学校に向けて歩いている途中、「気持ち悪いかも…」と息子が言い出したので、急遽近くの公園に入り、持っていた手袋を丸めて主人とキャッチボールをしました。毎日のようにしていたキャッチボールで気持ちがほぐれたようで、「もう平気!」と言って学校に入っていました。

試験終了後、待ち合わせ場所にきた息子の顔色は悪く、疲れ切っていました。「どうした？」と聞くと、「教室が暑くて気持ちが悪くなっちゃって・・・午後の受験はいけない」それを聞いて不安になりましたが、とりあえず午後受験できるようにして可能性を増やさなければと思い、お昼を食べて休憩しました。

そこでなんとか励まして、午後受験に向かいました。午後受験を終えた息子は「理科が全然できなかったから、不合格だよ。でもスッキリした」と言い、受験前よりも晴れやかな顔をしていました。それを見て、結果はどうであれ受験できて良かったと思いました。

午後校はその日のうちに結果が出て、息子が言った通り不合格でしたが、翌朝出た中央の結果が合格でした。第一志望校以外ではありますが、本人が気に入っている学校から頂く合格のありがたさを、本当に感じました。

親としてはこれで中央に進学できるからと、一息つける気分になりましたが、息子はここでスイッチが入り、絶対慶應に合格すると言って2月2日はFCの自学室に行き、夜まで先生に慶應対策をしていただきました。

2月3日、1日の反省をいかしてボールを持参し、途中の公園でキャッチボールをしてから受験に向かいました。

受験を終えて、息子が出てくるのを待っていると、たくさんの保護者の列に埋もれて姿は見え、人の隙間から息子の帽子がちらっと見えました。それを見て、3年間本当によく頑張った成長したと思った息子はまだこんなに小さかったのかと実感しました。

そして、私たちのところに戻ってきたとき、いままで受験校のなかで一番いい表情で、「すごくてきたかも！FCに電話する！」と言ってH先生に手応えを報告していました。

息子の感触通り、翌日の発表で一次試験の合格がわかりました。合格がわかるとすぐに翌日の二次試験にある面接の練習をFCの本部で対応して頂きました。

練習させていただいたことで親子ともに自信を持って二次試験に臨めたと思います。

実際の面接では息子がとても落ち着いて、息子らしく堂々としていたので、とても頼もしく感じました。

試験を終えたときは家族で団結してやりきったと清々しい気持ちで帰宅しました。さらに翌日2月6日合格を頂くことができ、我が家の受験は終わりました。

その日は信じられない気持ちで涙も出ませんでした。数日経って、2月3日に息子が解いた慶應の算数の冊子を開いたとき、たくさんの書き込みやケアレスミスをしたためにつけた印があり、「本当に合格したい！」と全力で解いたことが感じられ、初めて涙が出ました。

◆最後に

受験を終えるまでに感じたことがあります。息子には息子にあった取り組み方がある、息子に無理をさせすぎたり、精神年齢や環境の違う他の子の例をあてはめようとしたりしても意味がないということでした。

息子は5年生からテストの結果に一喜一憂して泣いたり怒ったりしていたので、そのたびに「点数はいいから、直しを丁寧にやろう」と声をかけ、切り替えてくれるといいのにと感じていましたが、結局直前期まで一喜一憂していました。

本人も悔しくて何を言っても泣くのだから、とりあえず泣かせて落ち着いてから話をするようにしました。

ほかにも、算数の問題を解いているときにいつも歌いながら解いていたので、それをやめるように言った時期もありましたが、気分良く解いているというふうに理解して、そのままにしておきました。

他の子は11時まで勉強しているらしいとか、子ども自身でテレビやゲームをやめる決心をしたらしいなどと聞くと、息子にもそんな日が来るのかも期待したこともありましたが、我が家には来ませんでした。

子どもを変えるよりも、いまの時点の息子が取り組みやすいようにサポートした方がいいと、6年生になってから思うようになり、すこし肩の力を抜くことができたように思います。

勉強に向かえる時間もリフレッシュ方法もその子によって違うと思います。

これを実現できたのもシグマTECHで柔軟なスタイルで受験できたこと、先生方にきめ細やかにご対応いただけただけのおかげです。

親子ともにお世話になり成長できたと思います。本当にありがとうございました。



Aさん「意識が変わった特別な日からの日常」

進学先：慶應中等部

僕は6年生になったときにすぐに大きな壁にぶつかりました。それは模試の結果です。4月、初めての合不合判定テストの結果が出たときでした。

他の人から見ると最初にしてはいい方だと言われていましたが、自分的には偏差値が10も落ちてショックでした。

そんな僕に転機がやってきたのが、2023年8月23日夏の甲子園で決勝戦が行われ、慶應高校が優勝したときでした。

僕は野球がとても好きで、さらに慶應高校の活動の指針である「エンジョイベースボール」にも惹かれて慶應高校に行きたいと思うようになっていました。そして母にそのことを言ってみると母は頷き賛成してくれて、第一志望校は慶應中等部に変更しました。

しかし、模試の結果や難しい問題に一喜一憂しよく母に「点数に振り回されないでやるべきことをやるだけだよ」と言われていたのに、それでも一喜一憂してしまうというのを永遠に繰り返し1月までやっていました。

夏期講習後もとても大変で、慶應の過去問をやってもなかなか点数が取れず、あきらめかけた日もたくさんありましたが、慶應に行きたいという強い気持ちは変わりませんでした。

いままでと同じでは合格できないと、算数は慶應の過去問を30年分くらい解いたり、傾向に合わせて繰り返し演習したりしましたが、模試の合格判定は最後まで80%に届かないまま最後の模試を終えました。

正直な気持ち「このままだったら慶應は合格できない」と思いました。追い打ちをかけるように冬期講習では苦手な理科など難しい問題をやり不安になりましたが、その不安を吹き飛ばすためにはできるようにならなければならないと思い、冬期講習の始まる前の9時半から自学室を使い、苦手な分野の勉強を繰り返して冬期講習後の佐久長聖受験に臨みました。

このときはまだあまり入試という実感がなかったためリラックスしてできましたが、息つく暇もなく埼玉入試のため前乗りのホテルに行きました。

そして埼玉の開智中の入試から帰ってきたときは独特の緊張感で疲れてしまい、その翌々日受験予定だった埼玉入試は受験せずに、家で開智中の合格発表を見ました。

そのときはひとりで勝手に合格発表を見てしまい、すぐに近くにいた母と喜び合い、トイレに入っていた父がポカンとしていた姿がおもしろく大笑いしてしまいました。

そして運命の東京入試が始まります。2月1日午前は中央大学附属中学校を受験しましたが、この入試で疲れ切ってしまう、午後の東京農業大学一中では集中できず不合格でした。「これが入試の怖さなんだ」と改めて実感しました。しかし第二志望の中央大附属中学校に合格できたので、2月2日はFCで H 先生と翌日の慶應中等部対策に時間を割けました。カメラ越しではなく直接先生や同じクラスの子にも会えて緊張が少しほぐれました。

そして翌日、大本命・慶應中等部の受験が始まりました。そのときはいままでとは比べものにならないぐらいの緊張感で頭がクラクラしましたが深呼吸をして気持ちを落ち着かせ試験に挑みました。

いままでとは比べものにならないぐらいどの教科も自信があつてつい H 先生に「受かったかもしれないです!」と電話してしまい、そのあとに冷静になって考えたら、これで落ちていたらどうしようという気持ちになってしまいました(笑)

そんな気持ちを抱えながら2月4日午後3時、合否を見るときは手が震え躊躇しましたが、思い切ってボタンを押すと目の前には桜の背景が見え、家族みんなで抱き合い喜びました。

そして大急ぎで御茶ノ水のFC本部に向かい、二次試験の面接の練習をして翌日の試験に臨みました。二次試験の結果が出る2月6日、二度目の桜色を目にし、涙を浮かべながら激しく喜びました。

こうして僕の激動の受験は幕を閉じました。その桜色の風景はたくさんの涙と努力が集まってできたもの。そのひとかけらでもかけたら僕は合格できなかったと思います。

「努力は大切」よく耳にするこの言葉、それを身をもって体感できた年だったと僕は思います。



進学先: 聖光学院

〈入塾まで〉

息子は新4年生から大手塾で中学受験勉強を始めました。

もともと自宅での勉強には苦勞していましたが、秋以降は家での取り組みがどんどん悪化してしまいました。親もいろいろ考えて、飴作戦、鞭作戦、放置作戦などあらゆることを試してみましたが、残念ながら状況を変えることはできませんでした。「馬を水辺に連れて行くことはできても、水を飲ませることはできない」ということを嫌というほど痛感しました。

成績に関しては、その時点では思ったほど下がっていなかったものの、仮にこの調子で続けて、行きたい学校に合格できたとしても、これが息子の人生においてプラスになるのだろうかという疑問を持つようになりました。

何度話し合っても本人の姿勢は変わらず、親も疲れてしまい、もう中学受験はやめようと本気で考えていました。

ところが息子は中学受験をやめることは嫌がりました。考えた末、せめて環境は変えた方がいいと思い、転塾先を探し始めました。

そして以前見た東洋経済オンラインの記事を思い出し、新5年生になる頃にだめもとで「まだ空きはありますか?」とシグマTECHに問い合わせをし、そうこうするうちに息子はシグマTECH生になりました。

〈何を大事にするのか〉

転塾を機に、親として何を大事にするのかを改めて考えました。

それは、受験が終わったその先につながる経験をしてもらうことと、「学ぶことは楽しい」という気持ちを持ち続けてもらうことです。

息子は地道にやるべきことと向き合うのは苦手でしたが、ごみでも夢中になって遊んでしまうくらい発想力が豊かで、何か新しいことを知ったり発見したりするのが大好きで、ネガティブなことはすぐ忘れ、毎日楽しそうでした。

そうしたのびのびとしたところは、これからもぜひ大切にしたいと考えていました。行きたい学校に合格したとしても、中学受験の勉強で燃えつきて目が死んでしまっただけでは意味がありません。

それを考えると、合格だけを目的に受験勉強をさせるのではなく、もう少し長い目での成長を大切にして、学ぶ姿勢やノートの取り方から教えてくれたり、日曜探究講座で好奇心を刺激してくれたりするシグマTECHは、息子にぴったりだと思いました。

〈入塾後の様子〉

シグマTECHに行って息子が劇的に変わったかということはありません。

最低限の約束と言われたステップ1が終わらないことも多かったです。嫌いな漢字の勉強でただただ、2時間過ぎてしまうこともよくありました。ノートも解読不能で、丸つけも×解きもなかなかできませんでした。それでも、親以外に先生方もみてくださっていると思うと、以前より気が楽になりました。

できもしないことを求め過ぎてもお互いのためにならなかったのも、どうしても課題と向き合えないのがいまの息子であり、どうにもできないということを一定受け入れるよう心がけました。

そして、小学生の間は無理でも、いつか先生に言われたことを思い出して活かしてくれるなら、それもよい経験になるだろう、と気長に考えるようにしました。

結局無理やり水を飲ませることはできないので、親にできる範囲で環境を整え、本人が水を飲むのを待つしかありませんでした。

〈息子の成長〉

先生方にも言い続けていただいたことが花開いたのか、6年生の後半くらいからだんだん丸つけができるようになりました。仕事しながら解読不能なノートの丸つけまで面倒を見るのは、夫婦ともども発狂しそうだったので、これは助かりました。

また、最後の方は自分から先生にやるべき課題を相談したり、アドバイスをメモしたりして、目標のために自ら努力する姿勢が見られました。

この成長はうれしかったです。

合格の可能性がほぼなかった憧れ校も最後まであきらめずに、テストのあと「力を出し切れたと思う」と清々しい顔で言っているのを見て、結果がどうあれ本当によかったと思いました。

〈志望校の設定〉

我が家は本人の強い希望により、第一志望は無謀でも最後まで変えませんでした。その代わりに、他にも行きたいと思う学校をいろいろな偏差値帯でたくさん見つけるようにしました。

受験する学校のどこに通うことになっても、子どもが楽しく学校生活を送る姿が想像できたときに、受験は半分終わったように感じました。志望校の設定はそのくらい大事だと思います。

第一志望の学校で力を出し切れたのは、その前はかなり気に入っている学校の合格をいただけていたことも関係あると思います。

親が気に入っていても、本人がそれほど強い思いがなく、かつ対策の大変そうな学校は、早い段階であきらめました。

日頃の課題もなかなか取り組めない息子の場合、プラスαの対策はかなり絞らないと厳しいなと思ったからです。

また私が一番好きだった学校を早々に候補から外したことで、結果的に志望校についてわりと冷静に考えられるという副産物もついてきました。

〈やっておけばよかったこと〉

学校見学です。現地に行ったのは20校以上、web説明会も含めると約30校と、それなりにがんばって情報収集しました。

しかしながら、なかにはコロナ禍の影響もあり、直前まで見学できなかった学校もありました。

実際に見たら息子には合わないと感じ、12月に入ってからあわてて同じ日程で受けられる学校を探し、予定していた受験校を思い切って変えました。

学校説明会の動画を見たり、敷地内見学をさせていただいたりはしましたが、校内に入るのは受験当日が初めてになってしまいました。

調べてみたら非常に魅力的で、その学校に進学する可能性もあったので、事前に文化祭やリアルの説明会に行けなかったことは悔いが残りました。

2日以降の学校は特に、チャレンジ版と安全版それぞれ、何パターンか考えておいた方がよかったなと思いました。

〈やっておいてよかったこと〉

最も息子に効果があったのは、対面自学でした。

対面自学がなかったら、直前期でも家ではほとんど何もできなかったと思います。仮に対面自学が進みが悪い日があっても、家にいてだらだらされるより親子の精神衛生上はずっとよかったです。

また、結果ではなくプロセスを見るよう心がけたのも、よかったと思います。息子の場合、ノートに日付を書けることはほぼなかったので、日付を書いただけでも半分からかいつつも褒めの対象でした。

テストの点は下がっても、基本問題でのミスが減ったなどがあれば、そこも認めてあげたいところです。そうやってなるべくいいところを見つけることで親のストレスも多少減りました。

〈最後に〉

入塾前から、花まる学習会は目先の学力よりも、人生を豊かにすることを考えた教育をしている学習塾だと認識していました。

その花まるグループの塾らしく、シグマTECHは子どもをこの先の人生もある一人の人間として見てくれる温かさのある塾だと思います。

ときどきガイダンスと一緒に聞いたり、自学ノートを見たりすると、本質的なことをおっしゃっているなあと思うことが多々ありました。

中学受験というハードなイベントがあっても、親も子もメンタルを病むことなく、燃え尽きとも無縁だったのは、この環境のおかげでもあります。

最後まで温かく熱心にサポートをしてくださった先生方、本当にありがとうございました。

仮に第一志望の合格がなかったとしても、シグマTECHに通うことができよかったと思う気持ちに変わりはありません。

また、息子と一緒に勉強したり、おしゃべりしたりして、通塾生活を支えてくれた仲間たちにも感謝です。

これから受験されるみなさまも、それぞれにとって幸せな受験ができるよう、心から祈っています。



Bさん「自学室に通う僕」

進学先：聖光学院

最初に悩んだのは、中学受験をするかしないかということでした。

小学校は公立で、小さい頃から勉強はしっかりやっていたので周りの子より勉強は得意で好きでしたが、中学受験するか考えたのは3年生のときだったので判断に迷いました。

考えた末、楽あれば苦あり、苦あれば楽ありと考えて、中学受験することにしました。

しかし3年生のときに通信教育の中学受験のコースをやってみて、自分がちっとも計画的でなく、一人で勉強できるタイプでないことに気づいたため、4年生から大手塾に入塾しました。

ずっと上位クラスをキープしていたものの、時間が経つにつれて課題を一人でこなすことが難しくなり、自学室のある塾への転塾を考えるようになりました。

TECHの体験授業を受けてみると初対面のNくんがいろいろ教えてくれて、先生も生徒も優しく、苦手な先生もいなくて授業はおもしろかったです。

何よりも日曜探究や軽食タイムが一番の魅力だったので、TECHに入ることを決めました。

TECHは授業の日数も授業時間も少なく、課題も最低限に絞られていたので、どんどん内容を吸収することができました。朝夜テックにしっかりやったことが大きなポイントだったと思います。

志望校選びの際は、文化祭やオープンキャンパスは COVID-19 の余波でなかなか見に行けませんでした。合計20校程度の学校に行くことができました。

聖光学院を第一志望にしたのは、食堂でソフトクリームを一年中自分で作って食べられて、文化祭がたのしく、何よりも自分の趣味の公認団体の出し物にひかれたからでした。

僕が入試を終わっただけだからこその言えることは、初めの時期(4年生)にしっかり文字を丁寧に書いておくことが大事だということです。

でないかとあとで取り返すのに倍以上の時間がかかります。大体の学校で漢字は出るので、丁寧に書くということに加えて、だらだらやらない方が良いでしょう。

なぜなら(これはどの教科でも言えることですが)頭に入らないからです。最初の方は次の授業やテストのために勉強してしまいがちですが、その勉強は入試のためにしているのです。短期記憶で覚えないようにした方が良いでしょう。課題が一気に増えるときや時間がないときは、中途半端に全部やるのではなくて、一つずつ確実にやっていった方が絶対に覚えます。

しかし集中できないときは必ずあります。長時間やっていると疲れます。そんなときは、時間を決めて自分の好きなことをやると良いと思います。

僕は折り紙を折ったり本を読んだりしました。

そして6年生の12月(残り3か月)に入るとコアプラス社会をひたすらやり、基礎で落とすことがなくなってきました。

志望校対策はこの頃から試験前日まで、毎日数時間ほどやりました。ここで M 先生が「勉強は死ぬ気でやっても死なないから」とおっしゃり、その通りだと思ってそれをモットーにしました。

1月はほとんど毎日自学室に行きました。

1月の埼玉受験での前泊はしませんでした。

栄東では模試のようなほどよい緊張で、自分の力を出し切れました。

みなさんも緊張したら模試だと思って、緊張しなかったら落ちるかもしれない本番であることを意識して、適度な緊張を保つことをお勧めします。

また、1月校は受験者が多いため、駅やバス停などは混みます。

足が疲れるので、対策をお勧めします。過去問で合格最低点を取れたことによる安心感とはとても大きく大きいので、過去問を解くときは集中できる環境を作ると良いです。

試験は朝早くて、眠りそうになることがあるので、寝ないためにということに加えて、頭を起こすために、試験開始の2時間前には起きて、移動中は本を読んでみてください。(なぜ2時間なのかというと人間の脳が完全に起きるのが、約2時間であるからです。)

1月校の結果はどちらも合格していました。

相性が悪い学校も合格できていてうれしかったです。

いよいよ受験本番。

1日の本郷は比較的相性が良く、合格点をたくさんとっていたので良いスタートダッシュを切れました。

最初に良い結果がでると自信となります。その勢いで午後入試ができて良かったです。

また、本郷の合格発表のときに、一気に受験番号が出てきて驚きました。落ちたときの覚悟ができないとショックが大きくなるので、合格発表の形式は先に調べておくのをお勧めします。

結果はどちらも合格していました。

それにより本命の聖光学院を2日に受けられることになってうれしかったです。

ここで注意です。トイレは行きたくなくても、行くことをお勧めします。

2日の聖光学院の理科の時間にトイレに行きたくなって集中がしにくかったことがありました。

繰り返しますが一時間弱の試験では途中で行きたくなる可能性が十分にあるので絶対に行った方がいいです。(トイレは混みます)

また休み時間に本を読む場合は、すぐに読み終わらない本(同じシリーズは途中で飽きてしまう危険があるのでダメ)を持っていくといいです。

2日目の試験が終わったあとは、TECHの自学室に行きました。

そのときに一緒に勉強してきた友達たちに会えて、受験は自分一人で戦うものだけど一人じゃなくみんなも戦っているんだと思って最後までがんばることができました。

そのあと浅野を受けたのですが、受験会場でたまたま仲の良い友達に会ったので、やる気にもつながりました。

最後まで全力を出し切れたのは友達のおかげだと思います。

そのあとに中華料理屋さんに行って、初めて本格的な麻婆豆腐を食べました(麻婆豆腐にしたのは歯が7本抜けていたから)。

その日は暖かかったので花粉が飛んでいました。

麻婆豆腐を食べ終わったあと、その場で聖光学院の結果発表を見ました。

合格していて驚きました。麻婆豆腐のしびれのせいなのか花粉症なのか、涙腺が緩みそうになりました。

受験が終わったいまだからこそ言えることですが、もともと第一志望の聖光学院は SAPIX オープンや学校別模試でも一回も 20%を超えたことがなく、過去問でも一回も合格点を超えたことはありませんでした。

1月に入るまでは最低点を平均 82.5 点も下回っていて、本当に厳しいと思っていましたが、合格することができました。

その理由は冬期講習や入試直前特訓にあったと思います。

もう 1 か月しかないから何も変えることはできないと思うのでなくて、まだ 1 か月あるからその間にこの対策をしておこうとして、あきらめずに自分を信じていられたからこそその合格だったと思います。

数日の講習と直前特訓でしたが、そのあとも自学室に行って勉強を続けていたら、過去問で合格最低点まで-91 から-25、さらには二週目ではありましたが+4 点もとれて、もしかしたら合格できるかもと期待してしまいそうになりました(注意!油断しないように)。

なので、最後の最後まであきらめずに自信をもって、入試までの一日一日を蔑ろにせず大切にしてほしいと思います。

終わりよければすべてよし、ではありませんが、最後の一日まで君は変われると僕は思います。

最後に入試全般において言えることですが、特に第一志望の試験を受けるときに大事なことは、自分の 100%の力を出し切れたと感じられることです。

誰もが第一志望と必ずご縁があるわけではないです。でも残念な結果になっても、100%力を出し切れたなら、これ以上やろうにも仕方がなかったと考えられると思います。

僕はTECHが大好きでした。卒業しても、TECHの友達から毎日のようにメッセージが届きます。卒業してもずっと友情は続く、これもTECHのいいところです。

お世話になった先生方、友達たち、本当にありがとうございました。

いま読んでいるこの体験記が少しでも役に立てば光栄です。いま受験生の君は入試が不安ですか?だいじょうぶ がんばる君を卒業生は応援しています。

追伸

わからなかった難しい言葉は言葉ノートにすぐ書いておきましょう。伸びるチャンスです。

例 蔑ろ(ないがしろ)

前泊(ぜんぱく)

光栄(こうえい)

麻婆豆腐(まーぼーどうふ)



Cさん保護者さま(父)「中学受験について」

進学先:女子学院

以下2点について箇条書きにて書かせていただきます。

受験生活のなかで良かったこと

・学校をたくさん見た(男女別学、共学、伝統校、新興校、HP、説明会、文化祭、ロコミ等)ことによって、学校の価値観と、自身が求める価値観とが一致しているかどうかを確認できたこと。

・4年生からの受験前半で走らせなかったことにより、6年生で走る気力と伸びしろが残っていたこと。

・弱かった算数について、I先生に市販の教材を紹介していただき、夏休み期間に徹底的にやり込んだこと。

・成績が伸びず家庭では女子学院を断念する決断をしたあとに、I先生に客観的な意見を伺ったところ、先生の見立てが我が家の見立てと異なり、結果的に断念せず挑戦することになったこと。

・学校別模試を必ず受け、6年生後半は学校別対策を中心に勉強を行ったこと。

・試験当日の Zoom 応援により、緊張で固まっていた娘の口から「日常に戻った!」という言葉が聞け、表情が明るくなり足取りも軽くなり力強くなって試験に臨めたこと。

中学受験において大事だと思ったこと

・算数。中学受験は算数で決まると言われることがあるが、実際に算数の成績が良くなると総合成績も伸びてきた。

・自学室の活用。自宅で過去問をやったときより点数が良いということが何度もあった。

・先生との相談。自分自身で熟慮して決断したときでも、数多くの生徒を見てきた先生に意見を伺うと、目から鱗で結論が変わることが度々あった。

・通うことができる前受け校。心強いお守りとなった。

・募集要項の読み込みと一覧表の作成。

通知表が必要だったり、速達指定があったり、入学金の期限があったり、学校ごとに異なるため、入念な準備が大切。



Cさん保護者さま(母)「中学受験を通して何を学んだのか」

進学先:女子学院

2月2日午前9時。

娘を2日目受験の学校へ送り出した主人と私は、近所のファミリーレストランに入りました。

1日に受けた女子学院の結果を待ちながら時間を潰す3時間。

受験のスケジュールに関してもはや擦り合わせる事項はなく、どちらともなく話し始めたのは3年間の受験生活の振り返りでした。

サボることなく地道に勉強を続ける姿。

女子学院に志望校を決定するまで何度となく葛藤を繰り返す姿。成績が振るわず悔しい思いに涙する姿。

娘は私たちにさまざまな姿を見せてくれましたが、常に娘のなかにあったものは、絶え間ない努力と粘り強さ、自力で乗り越えるたくましさ、揺るぎない強さでした。

思い出されるエピソードを語りながら主人と私が出した中学受験の結論、まずは成長する姿を見せてくれた娘への誇りと感謝の気持ち、そしてなによりも、ここまで受験をやり遂げた娘は、今後どのような困難に遭おうとも、苦しい立場に置かれようとも、自ら考え行動できる力を身に付けたという確信でした。

それは、中学受験という選択が間違いではなかったという肯定感にもつながるものでした。

熱い思いをぶちまけあった我々は、娘がどの学校に進学したとしてもこの思いは変わらないことを確認し合い、試験の終わる娘を迎えに行きました。

結果的に、運よく志望した学校から合格を頂くことができましたが、娘という人間の本質を目の当たりにできたこと、それは何物にも代えがたい気づきであり学びだったと感じています。

最後に、娘に関わってくださったシグマTECHすべての先生方に心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。



Cさん「絆」

進学先:女子学院

私はこの受験を通して学んだことがありました。それは先生や家族、友人との「絆」です。

私は夏休み前に一度、第一志望校の合格判定が30%になったことがあります。夏休みに頑張って勉強し、夏休み後にもう一度模試を受けてみても判定は45%。家族で話し合った結果、女子学院は諦めようという決断をしました。

私自身その決断はとても悔しいもので、できればしたくありませんでした。

そんなとき先生が「まだ諦めるのはもったいない」と言ってくれました。

いまでも鮮明に覚えています。先生はどんなときでも私の意見を尊重してくれる頼もしい存在でした。

また、私の両親は生活面をサポートしてくれました。

外食や旅行が好きで受験の前はよく行っていましたが、6年生の後期からは一切なくなり私のスケジュールを第一に考えてくれました。

食事は毎回母が手作りしてくれました。母の手作り料理は安心感がありました。

そして最後の1か月は試験本番の開始8時半に合わせて、毎日5時半に起こしてくれました。

両親の受験期の言動すべてから、私のことを最優先に考えてくれているのだと感じることができました。

そして塾の友達がいってくれたからこそ、一緒に勉強を頑張ることができました。試験2日前の激励会が終わったあと、「頑張ろうね!!」と励まし合うこともできました。

友達は受験勉強において私の支えとなってくれたと思います。

私のためにたくさんの人が関わってくれた受験でした。

合格発表の瞬間は怖くてたまりませんでした。落ちていたらどうしよう、落ちているかもしれない。

そんな思いが私のなかを駆け巡っていましたが、いまでは大切な思い出のひとつです。

本当にシグマTECHで良かったです。

私の受験を支えてくれた人たち、本当にありがとうございました。

これからも自分の目標に向かって人との絆を大切にしながら、全力で取り組んでいきたいと思います。



Dさん保護者さま「娘らしい中学受験」

進学先: 雙葉

娘が4年生になり、中学受験勉強を開始するにあたって、親として「娘らしさを守ること」、「子どもらしさを奪わないこと」を心に決めました。

それは、私が娘より一生懸命にならない自制でもありました。

娘はシグマTECHに通いだした当初より、勉強(課題)を自ら行い完結させてくれたので、大変に思うことはありませんでした。

娘は勉強以外に興味を引かれることがたくさんあり、与えられた時間で課題とやりたいことの帳尻をうまく合わせていました。

課題はステップ1のみをきっちりと完結させるも、余力はやりたいことにあて、親としては勉強に向けて欲しいと思いつつも、無理強いはせず、いつか本気になってくれればと見守ることにしました。

そして、6年生になり周りは本格的に中学受験に集中し始めているなか、学校行事に全力で取り組むマイペースな娘の姿がありました。

学校の代表となり全校集会の台本を作成し、2学期には運動会の応援団、学習発表会(劇)の場面監督として朝練に参加し、「いま、一番学校楽しい!」が日々更新されていきました。

受験勉強とやりたいことをどちらも頑張るためにはどうすれば良いかを何度も話し合い、また、ときには、「好きなことをやりたいなら、志望校を変更するべきで欲張りすぎる。」と言ひ合いになったこともありました。(娘はどれも譲りませんでした。)

11月末にヴァイオリン発表会出演を終え、ようやく勉強に打ち込めるようになったのは、12月になってからです。遅いです…不安でいっぱいでした。

冬期講習が始まり、娘が「やりたいことを封印する。」と宣言し、いままでになく本気で勉強に向き合う姿が見られました。マイペースな娘から「時間がもったいない。」という言葉が出たときには驚きました。

冬期講習後は、I先生にもお声掛けをお願いし、“入試当日までしっかりと準備をして臨むこと”、“後悔しないために”と娘に言い聞かせ、半ば強制的にいままで一度も利用したことのない自学室に通うことを決めました。

最後の2週間、先生方が娘を合格へつなげようと策を尽くしてくださいました。先生方のまったく諦めのない心意気がとても心強く、ありがたくて涙がでました。娘も先生の気持ちに応えようとひたむきに取り組み、たくましい姿でした。

しかし、本番5日前に熱を出し、最後の授業、最後のシグマゼミが受講できず、「最後なのに…」と、とても辛そうで苦しそうでした。

娘の心が折れてしまうのではないかと私もどうにかなりそうとき、シグマゼミの先生方が心配して連絡をくださり、本番2日前にお時間をくださいました。

先生方との最後の授業を終え、自室から出てきた娘の表情は憑き物がとれたかのようにパッと晴れやかでした。結果はもういい、このまま2月1日を迎えられるばそれで良いと思えました。

いよいよ迎えた2月1日、最寄り駅から校舎へ向かう際、緊張を必死で隠す私の傍らで娘が「理科の問題楽しみだな。」と言い驚かされました。

校舎を前にしたときの高揚感は二人で歩んできた証のようでした。

すべての合否発表で、久しぶりに娘を抱きしめることもできました。

二人でたくさん学校に足を運び、「ここだ」と思える学校にご縁をいただくことができ、本当によかったです。

3年間の労いと健闘をたたえ、娘から「一番大変だったのはお母さんで、一番頑張ったのもお母さん、ありがとう。」と言われてしまいました。

そんなことは絶対にないのに…喜び、悔しさを分かち合い、お互いを労い合うこともできて、一緒に挑んだことを実感しました。

我慢することも多く、どうしてこんなにも困難な道を娘に進ませてしまったのだろうと思うことが何度もありましたが、「受験してよかった」と言ってくれたことが救いです。やりきってくれたのですね。

娘が傷つくのが怖くて不安に押し潰されそうとき、I先生が「結果じゃなくて、頑張ってきた過程を見てあげてください。必ず子どもは進んだ先で輝けます、大丈夫です。」と言ってくださり、目先の受験でなく、親がしてあげられることは娘の将来を信じることだと気づかせてくださいました。

そして、私もチームの一員に入れていただき、一丸となって、娘の将来を信じて駆け抜けてくださいました。

先生も相当なプレッシャーなはずのところ、娘だけでなく、親(私)にも寄り添ってくださり、最後の最後までフォローし導いてくださいました。

シグマTECHで中学受験ができて本当に良かったと思います。

中学受験があったおかげで、12歳の娘と、娘の将来にとことん向き合うことができました。12歳の姿に学ぶことも多く、私を成長させてくれました。親としても強くなりました。

学校を楽しむこと、日々を楽しむこと、ヴァイオリンを続けること、欲張りな中学受験だったと思います。周りからいろいろ言われ、「これでいいのか…」とブレそうにもなったけれど、娘が夢中になれることを奪わなくて良かった。娘はどのシーンでも素晴らしく輝いていて、私の守りたかった姿を見せてくれました。

そして、家族の絆も強くなりました。

夫も不安であるところ疲弊する私を支えてくれ、年長の妹も姉を一生懸命に応援し、家族で駆け抜けた一年でした。

ふわふわしてどこか緊張感の感じられない娘でしたが、最後は本気でよく頑張りました。そして、高い目標から逃げることなく、諦めることなく、最後まで挑戦した娘を誇りに思い、一人の人として尊敬します。

この経験はこれからの自信となり糧になると信じています。

娘の受験のことが頭から離れることのなかった生活から解放され、1か月近く経ちゆったりとした日常を送れるようになったなか、娘との関わりは明らかに減ってしまいました。

中学生となり更に私の手元から離れることを思うと、中学受験は娘と深く関われる最後のチャンスだったと振り返ります。

娘の目標におけて一緒に歩んだ日々はかけがえのない宝物です。

幸せな日々でした。

先生方、3年間本当にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。



Dさん「私らしい中学受験」

進学先：雙葉

【シグマTECHに入ったきっかけ】

私がTECHに入ったのは4年生のときでした。

きっかけは、通っていた小3Think!Think!Σで友達が「TECHの入塾テスト、難しかったー」と言っていたのを聞き、興味を持ったことです。

実際に入ってみると、受験勉強とは思えないほど遊び要素がたくさんあって「本気の楽しさ」を学びました。

【授業、課題について】

この3年間、課題が終わらず大変に感じることはありませんでしたが、常にステップ1までしか行っておらず、残った時間は自由時間にしていました。

毎回の授業が楽しかったおかげでとても集中できて苦にもならず、授業の内容がスラスラと頭に入ってきました。

いま思うと、少ない勉強量で雙葉中学校へ行くことができたのはTECHの楽しい授業があったからかもしれません。

1回1回の授業を大切にできたことが良かったと思います。

また、6年生の9月からは志望校別シグマゼミが始まり、本格的に過去問に取り組み始めました。雙葉のゼミは私だけで、マンツーマン授業を受けることができました。

すると次第に過去問の点が上がっていき、4科の合計点が合格最低点まであと数点のところまでいきました。

そんななか、1月の後半に風邪をひきました。

最後のゼミの授業を受けることができないと思っていたら先生方が別日に時間を取ってください、無事最後の授業を受けることができました。

感謝の気持ちでいっぱいです。

【勉強法について】

私は、自学室や朝夜テックを利用したことはありませんでした。

なんとなくいやだったからです。しかし、冬期講習後に自学室に行ってみるととても集中できました。

また、休み時間に友達と話すことが良い気分転換になりました。自学室はどんどん利用していくといいと思います。

また、私は暗記科目が苦手でした。その対策として、暗記カードを作成し、毎晩母と一緒に声に出して取り組みました。

特に、野菜の生産地は栄東で毎年出るので結果につながったと思います。

役に立った教材は、暗記科目ではカルタです。遊び要素が入っているカルタは、楽しく暗記する一番の方法だと思います。

算数では、下剋上算数です。毎日行うことでケアレスミスが少なくなりました。

理科の計算は、思考力問題集です。実践的な問題がたくさんあって初見の問題への対策として良いです。

国語については、過去問の大問を毎日行うことが一番だと思います。

【入試本番】

1月受験、2月受験ともにまったく緊張しませんでした。

いままでの勉強に取り組んできた自分を信じることができたからだと思います。

勉強していたのは事実なのだから、いまできるのはそれを信じることだけだと思いました。

雙葉の合格がわかったとき、私は飛び跳ねて喜びました。3年間頑張ってきてよかったと思いました。

【最後に】

TECHと出会えたことで本気の楽しさを知り、幸せな受験を体験できました。

本気で頑張ってきて本当に良かったと思います。

そして私がそう思えるのはTECH、FCの先生方や、ライバルとして3年間ともに頑張り励ましてくれたTECHの仲間たちがいてくれたからです。

本当にありがとうございました!!



進学先:海城

まさに万感の思い。

海城中学の合格発表を確認した直後、安堵とともに、花まる学習会に参加してから8年間の思い出が目まぐるしく胸中にこみ上げてきました。

3~4年生:最初の難関

2020年、新型コロナウイルス感染拡大により、家族で過ごす時間とともに中学受験の話をする機会が増えた結果、3年生の秋口から進学塾部門のスクールFCお茶の水校に通う決意に至りました。

4年生ではコロナ禍であったため、原則オンライン受講でしたが、受験勉強がより本格化する5年生からは対面授業を受けたいと考えていました。

しかし、埼玉の自宅からでは平日の授業にはどうしても間に合わないという問題にぶつかりました。

そんなとき、6年生も週2日授業が基本のシグマTECHで、オンライン+対面のハイブリッド授業の選択が可能になったとの朗報が。

私たち親子には渡りに船、これしかないとする思いで入塾テストを受けました。

いま思えば、このTECHの入塾テストが長い中学受験の最初の難関であり、スタート地点であったと思います。

4~5年生:痛恨の作戦ミス

「学校見学は4年生から始め、5年生までにはたくさん参加しておこう」
そんなアドバイスを伺っていたものの、コロナ禍の影響により開催数自体が減少していたため、土曜に予定が入ることが多い我が家は思うように参加できておりませんでした。

また、たまたま予約が取れた学校説明会に2校ほど参加しましたが、本人の感想は「う〜ん、校舎がきれいだった」程度で、
私たち親も「現実味のないこの時期に参加して意味があるのか？」
「それよりも土日は課題をしっかりとやっておくべきでは？」と思ってしまい、
その後はほとんど参加しなくなってしまいました。

この判断は、あとになってかなり後悔しました。

6年生になってからというもの、余裕のなかった息子は「とにかく遅れをとらないように」と、土日は課題やシグマゼミ(日曜講座)などに取り組むことに必死で、もはや学校見学や説明会に割ける時間が作れなかったからです。

やはり最後に自身のモチベーションを高めるのは

「どうしてもこの学校に行きたい」という想いの強さだと思います。

親の感性で「学校見学に意味があるのかな？」と決めつけるのではなく、この時期にしっかりと学校見学を行い、「なぜこの学校に行きたいのか」の動機付けを作るべきでした。

私たち両親が中学受験を経験しておらず、「情報不足・理解不足」からくるフォローの甘さ、本気度の低さが招いた作戦ミスであったと後悔しています。

6年生の12月まで:迫りくる危機

6年生は暗黒の時期でした。

受験者人数の多い合不合格判定テストに変わったとたん、偏差値が低迷。

いろいろと悩みながらも本人自ら決断した「海城を第一志望にする」という決意はどこへやら。相変わらずノート法は守らない、課題の抜け漏れ、○つけミスに×解き忘れなど。

「夏期講習で伸びる子が多い」という(都合の良い)情報を信じ、夫婦でかなりサポートしてきたつもりでしたが、夏期講習が明けても成績は伸びるどころか、さらに微妙な下降傾向。

結局12月の最後の合不合格判定テストまで偏差値はほぼ変わらず、保護者会で教えていただいた「平均偏差値+5が適切なチャレンジ校のレベル」の範囲に第一志望が届かないどころか、模試の結果では合格圏に届いていた他の志望校でも、過去問を解くと合格最低ラインまで届かない、という危機的状況でした。

「海城を受験することすら無謀なのでは？」

「志望校を全体的に見直さなければいけないのでは？」

「しかし今更志望校を変更したら過去問対策が間に合わないのでは？」

「いっそ中学受験を諦めるべきか」とネガティブな考えがめぐり、考えこむ日々が続きました。

しかしながら、「どんな理由や動機であろうと、息子が自分で決めた目標には挑ませてあげたい」「どんな結果になろうとも、ゴールテープは切らせてあげたい」との思いが勝り、海城に挑み、結果を出すための作戦を立てる決意をいたしました。

6年生の12月から本番まで：背水の陣。大逆転のための大作戦。

年末に先生と複数回オンライン面談のお時間をいただき、夫婦で考え抜いた作戦と一緒に検討いただきました。

まず、2月の第一志望に挑戦するための絶対条件が「1月埼玉受験で合格を勝ち取ること。合格がなければその時点で海城への挑戦を諦める」というものでした。

その条件をクリアするための作戦①が「受験校を絞る」ことでした。通常であれば、1月は埼玉・千葉等で難易度をばらつかせて複数校受験するのかもしれませんが、我が家は通うことになって満足できる学校として「開智中学校」1校に絞り、同校を複数回受験することで過去問対策を効率化しました。

ただこの作戦は、当時の実力を踏まえると、先生からも「最悪全滅もあり得えます」と正直にご指摘いただいた、まさに背水の陣でした。

その作戦①をクリアするため、算・社・理の基礎を徹底的にやり直しました。「解けるはず」なのに間違える問題がボロボロ見つかり「もう間に合わないのではないか」との思いが何度も頭をよぎりましたが、徐々に基礎力が向上したのか、1/10直前には開智中学校の過去問も合格ラインに近づくまでになりました。

そして迎えた開智中学校の1/10第1回、1/11特待A、1/12特待Bの3連戦。3日目が終わるまで合格発表は見ないでほしいと息子が希望していたので、1/12の帰宅後、一息ついてから恐る恐る息子と二人で携帯から合格発表をのぞき込みました。

1/10第1回、なんと「合格」の文字！二人でハイタッチ！ひとしきり喜んだあとで、「あ、特待Aの結果も出てるんだって」と再び二人で携帯をのぞき込むと・・・なんとこちらも合格ラインぎりぎりでしたが「S特待生合格」の文字が！

さすがに二人とも「うおおお～」と声にならない声が出ました。

どうしても仕事の休みが取れなかった妻にはメールで報告。

我が家に、いけるぞ！という風が吹き始めた瞬間でした。

埼玉受験を、想定していなかった最高の結果で切り抜けられたので、作戦②を発動。

その内容は、「2月受験校は海城と巣鴨中学校のみに絞り込む」

「過去問も取り組む課題もすべて海城対策のみとする」ことでした。

この作戦②を発動した1/14から2/1の決戦まで、わずか2週間ちょっとの期間、朝計算・AM 過去問・PM×解きと課題・就寝前の一問一答、このルーティーンを黙々と続ける息子に、明らかな変化が生じてきたことをよく覚えております。特に苦手だった算数で、過去問が合格者平均点に届いていないにもかかわらず、「今日の問題は難しかったけどおもしろかった」「よく読めば解ける問題が多いことに気がついた」と発言が前向きになり、次第に、何となくですが、頼もしい雰囲気をもとうようになってきていました。

本番直前、それまで毎日自学室に送り出すときに「いま何をすべきなのか、何のためにやっているのか、しっかり考えよう」と問い続けておりましたが、この頃になると本人が自ら考え行動するようになり、もう何も言うことがなくなってしまっていました。その姿は立派な「受験生」でした。

迎えた2/1海城本番。緊張のあまり胃が痛むのは親ばかりで、当の本人は「いやぁ緊張する」というものの、思いのほか落ち着いており、テスト終了後も「いやぁどうかなあ」と言いながらも表情は明るく、その足で自学室に向かいました。

そして2/2巣鴨中学校。
正午に海城の発表があるため、少々緊張している様子が見えましたが、

やはり落ち着いており、冗談を飛ばしあうくらいの余裕もありました。

テスト終了後、くだらない話をしながら親子3人で歩き、いよいよ駅前に差し掛かったところで、「見るか。」

「合格ならこのまま新大久保に資料を受け取りに行く。

2/3に再チャレンジすることになったら、自学室に行こう。」と、決めていた約束を確認したうえで、息子一人が携帯から合格発表を……。作戦が、実を結んだ瞬間でした。

TECHでの中学受験を振り返って

息子が通う学校でたった一人の受験生。

学校の友人に相談できる相手はおらず、6年生になってからは遊ぶ時間もなくなり、とても孤独で苦しかったと思います。

しかし、一度も塾をやめたいと言ったことはありませんでした。

テストのたびにクラス編成を行い、競争心を高める大手他塾さまの方針は否定いたしませんし、過去からの実績に裏打ちされたひとつの教育のかたちなのだと思います。

しかしながら、2/1の前夜、5年生のときからずっと同じ先生たちと、同じ仲間たちと、仲良く楽しそうに自学室で勉強し、笑顔すら見せていた息子の姿を校舎の外から見かけたときに、先生が「魔界」とも称する中学受験を最後まで走り抜けることができたのは、息子にとって、TECHこそが最良の環境であったからなのだと確信しました。

自己管理が苦手な息子に、「自ら考える」ことが必要なTECHは難しいのではと、正直転塾を検討した時期もございましたが、最後までTECHを、先生方を、塾の間を、そして息子を信じ抜いて本当に良かったと思います。

花まる学習会、FC、そしてTECHの先生方そして仲間達には、この場を借りて改めて心より感謝を申し上げます。

8年間、本当にありがとうございました。

中学受験は、11歳の息子にとって厳しい試練であったことは間違いありません。しかし長い人生の転機の一つでしかないことも事実です。

今回の体験が、今後の困難に立ち向かうため、「メシが食える大人」になるための糧となることを願ってやみません。



Eさん保護者さま(母)「家族全員で乗り越えた受験」

進学先:海城

息子が中学受験を言い出したのは、小学2年生の頃。

「いっぱい勉強しなきゃいけないだよ、新聞も読まなきゃ。」と言ったら、父親の経済新聞をスラスラ読み始め、ビックリした記憶があります。

手遅れにならないようにと、進学向けのFCに通うことに。

お茶の水校舎は電車で小一時間かかるため、オンラインと通塾を選べるシグマTECHへと進みました。

一番苦勞したのは、本人の性格。

ランドセルのなかから蛇腹折りになった汚いプリントが出てきたり、鉛筆をなくすのはしょっちゅう。

なくし物忘れ物が多く、整理整頓が苦手な息子は、ノートの取り方も雑。

まるつけの雑さ、×解きの甘さが命取りで、なかなか成績が上がらず苦勞しました。

いよいよ6年生になろうとするころ、本人は何も言わずでしたが、それまで在籍したSクラスからTクラスに変わっていたことが分かりました。

デジタルノートで提出するノートはとても人に見てもらうものではなく、教えていただいたノート法守らない、まるつけは適当で、なぜか間違っている問題にマルをつける、×解き忘れるなんてしょっちゅう。

この頃から息子のノートチェックが始まりました。

最初は母親の私が。

「せめて日付、やタイトル・ページ数は記載しなさい」と、毎日同じことを繰り返し、勉強の内容より生活指導のようになってしまう毎日。

何度も声が枯れるくらい怒鳴ってしまい、とうとう主人に丸投げしました。主人も危機感を抱き、それからは夜な夜な息子のノートチェックをしてから就寝、の日々。

ノートは、せめて先生に見てもらうように直して提出しました。

まるつけの確認、算数に関しては、ただ答えを写して終わりになってないか確認し、毎日大変だったと思います。

ときには仕事で日付を超えて帰ってきて夜の1時2時までかかってしまうことも。

結局、何度言っても我流を貫いたままでしたが、たまにきれいな字を書いてきて、たまに日付・タイトル・ページ数書いてきて、それは続きませんでした、できたときはたくさん褒めました。おかしいと思いますが、ありがどうと言葉が出ちゃうほどでした。

×解きの甘さは先生にもご指摘いただき、両親から言われたこと以外は、やっど本人の心に響き、効果があったと思います。

いよいよ受験が近づき、冬期講習の頃には、本人の緊張が私にも伝わるほどで、何かできることはないかと模索していました。

最初に受ける学校は、嬉しくも出題範囲を教えてくれる学校だったので、出題範囲対策ノートを私が作ってみました。

コウモリの体の構造を書いたら見事に入試に出て、そのときはうれしく思いました。

本人も頑張り、無事に合格をもらえ、あとは第一志望の学校に向けて集中するのみ。

よくある雑誌の中学受験体験談で見た「合格の秘訣はパパの単語帳です」という記載に、単語帳は自分で作るものでしょう、とかなり引いていた私ですが、考えを改めました。

何度言っても息子が作らなかったQAノートは私が作成。

電車での通塾時間を無駄にしないように、少しでも点数が取れるようにと祈りました。

主人は、子どものノートチェック、スケジュール管理、私は子どもが寝る前1時間ほど、理科社会の一問一答、両親がガッツリ受験にかかわったパターンかと思っています。それだけに、第一志望合格は、とても嬉しかったです。

結果を主人と息子の3人で一緒に確認、発表まで緊張で吐き気すら感じていた私ですが、いつの間にか治り、一緒に喜びました。

悪口ばかり綴っていますが、何度も怒られて、模試の結果に落胆し、それでも勉強を諦めなかった、メンタルの強さは、感服します。

何よりも好奇心が強く、知識を入れることに貪欲、「勉強って楽しい」、根底にあるものが変わらなかったのは、保育園時代から花まる学習会に通い培ったもの、FC、TECHの先生方のおかげだと思います。

加えて、夕飯を家で食べることで、家族と話をすることで、メンタル的にもフィジカル的にも万全の状態を保てたと思っています。

楽しく幸せな受験を体験できたと思います。

合格後、興奮冷めやらぬなか、本人がぼつりと一言。「僕だけの力じゃない…」
本人が自分の力だけではなく、たくさんの方が助けてくれたことを、本人自身が感じており、感謝していて、そう思える子どもに育って良かったと思いました。
健康的な心が育った証です。

日常では、今後もたくさん課題を抱えている息子ですが、たくさん愛情で息子と接していこうと思います。

ちなみに、年中さんの弟(5歳)も立派に貢献しています。
コロナ・インフルエンザが大流行しているなかで、クラスでたった一人、しっかりとマスクして生活してくれました。

いまは立派に花まる学習生しています。家族全員で乗り切れた受験です。

同じクラスで仲良くして下さったTECH生のお友達、楽しく勉強を教えてくださいました先生、本当にありがとうございました。



Fさん保護者さま「成長を見守れた幸せな時間」

進学先: 吉祥女子

のんびり歩みを進めていた娘の中学受験が急転直下したのは、6年生の秋でした。
吉祥女子から1日校を変更し、「女子学院中学校を受けたい」と言い出したのです。

夏休み以降、娘は吉祥女子・鷗友の過去問ともに合格平均点近くまで解ける好調さをみせていました。

先生方にご尽力いただき、女子学院中対策に着手するもそこからスランプに。
解けていた吉祥女子の過去問も苦戦するようになりました。

そして年末。娘は憧れを一つ手離しました。「女子学院中学校は回避し吉祥に絞る」と自分で決めました。

先生と相談し、こんなに難しい決断を娘自身でしたことを誇らしく思いました。

そうして1月半ばくらいから調子を取り戻した娘は1日目で吉祥女子にご縁をいただくことができました。

そもそも、のんびりで手が速くない娘が女子学院中学校や吉祥女子、スピードを求められる学校に挑戦することになるとは思いもしませんでした。

そして入塾当時は到底こんな目標を抱けるような状態でもありませんでした。

そんな娘が自分事として受験校を選び、悩み、後は選んだ道だけを見つめてやり抜いた、その力強い成長にどれほど驚かされたかしれません。

学年ごとに振り返ってみたいと思います。

4年生

「生活リズム作り」

19時半に寝ていました。夜に勉強どころか起きていることもできませんでした。勉強できる時間を確保するために、先生にお勧めの本を教えてください夜に読む。終わったら感想を伝える…を繰り返し、少しずつ起きていられる生活リズムを作っていました。

生理現象に抗うのは大変で、成長とともに解決することも多いですが、勉強環境を整えるべく試行錯誤した時期でした。

「自学自走の定着」

4年生で一番力を入れました。苦戦しました。

親が指示してやらせた方がよっぽど効率的に思えました。

しかし自学自走の力は特に6年生で生きてきます。

やって良かった!と思えたことの一つです。

6年生になると息をするように、自然に1日10時間勉強するようになりました。

「この時間は疲れる頃だから好きな教科の課題にする」

「×解きが出そうだから早めに着手」自分の状況、体調にあわせて実に効率的に計画をたてていました。

これは一生ものの力だと思います。

先生にも何度も相談しアドバイスをいただきました。

親が100回言うより先生の1回が効果的でかつ平和。

私は娘の「困りごと・つまづく原因」を探り出し、先生にご相談、先生から娘にフィードバック、この繰り返しの3年間でした。

「朝テック、夜テック」

平日に毎日質問できるなんて他塾ではありえません。

最大限に活用したい。「わからないは持ち越させない!」と思っていましたが、娘は恥ずかしくてオンラインに入れなからスタートでした。

担任の先生が入っている曜日をお声がけいただき、入ったら歓待ムード。

そういった経験を何度も重ねて少しずつTECHのスタイルに慣れていきました。

課題量が少ないこの時期。4年生のときに力を入れたのは勉強以前の話ばかりですが、これが本当に大事だったと後に痛感します。

知識の詰め込みより、勉強の習慣づくり。

TECHでなければそんな余裕もなく、成し得なかったと思います。

5年生

「課題の取り組み」

課題が増える、難しくなる、大きな山場ですが諦めずに試行錯誤。

1学期はSTEP1だけ。2学期はSTEP2まで進めるように。

少しずつ目標をステップアップしていきました。

量より質。量をこなすのを目標にするとおかしくなります。

「取り組んだ分を定着させる」を優先にしました。それでも終わらないときには先生に優先順位、×解きのタイミングをアドバイスしていただいたり。

勉強体力をつけていく時期でした。

牛歩でしたが、3学期にはSTEP3も着手できるようになりました。

困ったら、とにかくご相談。

6年生

見える景色がガラッと変わり悩みの質が変わります。先生方と二人三脚感が増した1年でした。

I 先生、M先生には本当にお世話になりました。「説明会には20校」
「1月に一つは合格を」よく聞いていたお話が、実感を伴いズシリとのしかかってきた時期でもあります。

受験はn=1の世界ですが、先生方が全員に向けて常々発信している情報は絶対だと痛感しました。

「自学室」

待望の自学室が復活しました。

「○曜日の○時は勉強。リズムを決めると脳がすっと切り替わるようになる」という先生からのアドバイスをもとに、リズム作りのために学校から強制送還のように自学室に送りました。

娘は、本人の希望で6年生の春までピアノ・夏までバレエを続けていました。

しかしながら、夏期講習のタイミングで受験に集中することとし、自学室の利用も増えました。

仲間や先生の間目もありますし、眠くても勉強する流れができていきます。

困りごとを先生にお伝えしておくことで自学室に顔を出してくださり、お声がけいただく、そんな流れで問題点がキャッチボールの様に改善されていきました。

本当に有難かったです。先生との距離の近さもTECHの素晴らしい点の一つでした。

やがて習い事の代わりに、自学でお友達に会えることがモチベーションになっていきました。TECHは素敵な仲間に出会える場所でした。

受験期、仲間の存在が大きな励みとなっていました。

「受験校選び」

最終的には候補のなかから過去問の相性で決めました。

のんびりな娘がどこに辿り着くのか想像もできなかったのが「学校の良さは偏差値ではない。学校ごとの個性を見よう」と呪文のように3年間唱え続けておりました。

たくさん学校をみたものの、娘が「行きたい」と言った学校はわずかでした。

直前期に「もっと申し込める学校があれば」と不安になりましたが、どの学校にご縁があっても娘は楽しんでくれるだろう、と思えたことは救いとなりました。

3年間を通して

我が家は、勉強の伴走はしませんでした。

塾にお任せ。オンラインと対面のハイブリット、先生方との距離の近さ、唯一無二のTECHの特徴を大限に享受させていただいての合格だったと思います。

「塾が作り出す大流を泳がせる」では、娘はついて行けなかったと思います。

竹が節を刻むように、娘が学年ごとにスクッと健やかな成長をみせてくれたのは、個々のペースにあわせた手厚い指導をしてくださるTECHだったからこそ。

6年生保護者の悩みは沼です。

4年生、5年生とで築いた先生方への厚い信頼のお陰で、沼に引きずり込まれることなく進むことができました。

納得いかないときにはコミルや面談で何度もやりとりさせていただきました。

いつも親身に寄り添っていただきました。

特にI先生、M先生には言葉にしがたい感謝の気持ちでいっぱいです。

大手じゃない・設立間もない、そんなことは些末なこと。

大事なのが子どもがこんなにも楽しい受験の日々を送ることができたこと。

TECHはそれを叶えてくれる塾でした。

児童書しか読んだことがなかった娘が、私も匙を投げるような論説文を読むようになり、10時間寝ていた子が10時間勉強するようになる。

3年間で信じられない成長を遂げました。

それも楽しく。

TECHを信じて通った3年間。

娘が塾に向うときに見せる満面の笑みが好きでした。

それが見れなくなるのだけが寂しいです。本当にありがとうございました。



Fさん「私の中学受験」

進学先: 吉祥女子

私が受験で一番大変だったことは時間の使い方かなと思います。

私はよくお母さんにタイム・イズ・マネー（時は金なり）と言われていますが、本当にその通りだと思います。

3年生まで10時間睡眠（19時半に寝て5時半に起きる）で定着していた私は、睡眠時間は周りの人よりも長い方で、起きている時間を有効に使うことが大切でした。

自学室では友達もいて集中することができるので、よく使っていました。

夏前は集中が切れることがよくありましたが、夏期講習が終わったあとはマックスで自学室を使っても集中力もつようになり、勉強体力がついていることが実感できてうれしかったです。

また、課題などは目標時間を決めてタイマーでカウントダウンをしながら取り組んでいました。

第一志望は、もともとは吉祥女子でしたが6年生の10月に行った学園祭で気に入り、急遽女子学院中学校に変更しました。

学校別のゼミを受けさせてもらうなどいろいろな対応をしていただきました。

でも最終的には年末に先生と相談し、とても悩みましたが1日校は吉祥女子にすることにしました。

吉祥女子は1日と2日の両方受けることができますが、2日は過去問でもあまりできていなかったため、1日はチャレンジの女子学院中学校ではなく吉祥女子を受けることにしました。

2月1日はQAノートなどのほかに国語辞典(意味が不安な言葉を調べられるようにするため)や、TECHの友達にもらったおかし、カイロなども持っていきました。

私の課題は、最後までテスト内での時間の使い方でしたが、本番では過去問よりも多くの問題を解くことができ(最後まで解ききることができ)、うれしかったです。

発表のときは1時間前から緊張し30分前からタイマーでカウントダウンを始めました。

結果は合格でとてもうれしかったです。もしダメだったときや過去問で点数がとれないときは、最終的にご縁のあった学校が、自分に合う学校、と思っておけばうまく切りかえられると思います。

TECHの先生や友達、家族などTECHに行くのが毎回とても楽しかったです。ありがとうございました。



Gさん保護者さま「出逢いに感謝」

進学先:早稲田実業

花まる学習会に年中からお世話になり、とても温かいご指導をいただいたので、受験を考えた際、慣れているスクールFCにお世話になろうと当初は思っておりました。

ただ私の受験に対する考えが甘いかもしれないですが、夜遅くまで塾で勉強して帰ってくるのは小学生には大変なのではと思っていたので、短時間で効率よく、何とか受験勉強できないかと思っておりました。

悩んでいたときにシグマTECHの「お家でご飯を食べて難関校を目指す」という宣伝を見つけ、子どもも家でご飯食べたいということで、こちらの入塾テスト&説明会に参加しました。

I先生のお話を聞いて、ここに通わせたいと思い、お茶の水校まで通いました。5年生になったら吉祥寺校が開校したので、元々花まるでお世話になった吉祥寺校に異動しました。

受験勉強についてですが、4年生のときに私が読むために購入した、マンガの『二月の勝者 絶対合格の教室』(ビッグコミックス)を娘は何度も熟読してしまい、受験の怖さをマンガを通して知ってしまったため、4年生のときからちゃんと勉強しなければ受からないと自分で思っていたようです。

自然に勉強に向き合えたのは良かったのですが、テストの点に敏感になりすぎて、かえって心配してしまうこともありましたが、娘は愛読していましたが、子どもが読むことをお勧めします、とは言えません。

日々の勉強は1週間の課題を終わらせることに集中し、できなかったところは×解きの繰り返しという、地道なルーティーンと課題の多さに最初は大変そうでしたが、4年生の終わりには慣れてきたようでした。

TECHの課題表を軸に6年生まで継続して勉強したこと、TECHを通して自学の仕方を学べたのが、最大の強みかなと思います。

過去問は秋頃から始めましたが、最初はできないのが当たり前なので、できなくても大丈夫、気にすることはないと娘には言い聞かせて、課題を終わらせたあとに少しずつ取り組んでおりました。

学校選びは娘の性格から共学中心になってしまい、さらに自宅から通学しやすい範囲で選んだので、候補が少なかったです。

しかもコロナで4、5年生のときは、ほとんど学校見学ができず、6年生になってやっと学校見学できるようになったら、土日が授業や模試で忙しくなってしまったので、あまり学校を見ることができず終わってしまったのは心残りです。

6年生の最初の模試で第一志望だった明大明治が合格80%で、急遽モチベーションを保つため、本命の明大明治が無事に合格できるように最後まで気を抜かないよう、早稲田実業の受験を考えるように勧めました。

娘は学校見学も行っていないし、ピンと来ないし、何しろ手が届かないと思い込んでいたので、かなり拒否していました。ですが、受験までまだ日数もあったので、少しずつ早稲田実業も考えるように説明会に行き、気持ちを前向きにしていきました。

最終的な受験校は、本人も学校のことをよくわからずで、「ここじゃないと」

というこだわりがあまり生まれませんでした。そのため私が、説明会などで話を聞くなどして、本人に合うのではないかと思う学校を中心に選びましたが、やはり時間があたら文化祭などで、学校や生徒の雰囲気を実際見てみるのが一番だと思います。4、5年生のうちに足を運んでみるのがいいと思います。

1月の前受け校は、あえて埼玉受験は考えないで近場の都内で受験できる早稲田佐賀と佐久長聖に決めました。

早稲田佐賀は、早実を意識して早くから候補に挙げていました。早稲田佐賀がうまくいってくれば、早実も自信をもって受けられるのではと思っていました。

もしもうまくいかなかったときのことを考えると不安でしたが、なるべく前向きに考えて準備して当日を迎えました。

早稲田佐賀の合格発表が一番緊張しました。結果は合格をいただき、あとは東京入試に向かって、油断せず残りの時間を頑張ってもらいたいと願っておりました。

受験直前は早稲田実業と明大明治中学校の過去問を中心に言い、特に算数は傾向を自分で調べて自分から苦手な箇所単元の予習シリーズやプラスワンなどの問題を中心に再度解きなおしていました。

最後まで自学できたのは本当にシグマTECH、スクールFC、花まるのおかげだと思います。

チャレンジ校の早稲田実業は募集人数が少ないので、チャレンジ精神で最後の最後まで諦めないで本番の試験に向かっていきました。

本命校の明大明治中学校も同じように直前まで苦手箇所をやり直ししていました。

明大明治中学校の合格発表は娘の本命校だったため緊張しました。

この結果によって3日以降の受験先が決まるので、上手くいくことを祈るばかりでした。

結果は合格をいただき、3日は都立を受験することができ、これで受験を終了することになりました。

3日の午後が早実の発表で、本人は明大明治中学校に行くとはぼ考えていたので、早実の合格を見たときは、家族でびっくりしました。

その喜びのあとには早実に行くか明大明治中学校に行くかの悩みが始まりました。

娘は受かると思っていた早実が目の前に現れて、答えが出せないと思い、H先生に連絡して相談をお願いしました。

娘には以前から最終的に行く学校は自分で決めなさいと夫婦で伝えていたので、私たち親はあまり口出ししませんでした。

翌日、H先生にお時間をいただき、相談させていただき、Think!Think!でお世話になったK先生もいらしたので、娘とH先生、K先生と3人だけでお話しして、自分で納得して最終的に早実に決めました。

縁あって花まる学習会にお世話になって本当によかったと思いました。

毎日コツコツやるのが大事だということを身につけてくださり、読書ラリーで読書好きになり、おかげで国語はあまり苦勞しなかったこと、「なぜペー」で考える楽しさを教えていただいたこと。

すべてが受験に良い結果をもたらしてくれたと思っております。

お世話になったM先生には受験直前にご挨拶したら、快く応援してくださり、親子とも気持ちが温かくなりました。

Think!Think!でお世話になったK先生に相談させていただいたり、H先生にはいつもいろいろと相談させていただいたり、スクールFC、個別のオンラインの先生方には本当にお世話になりました。

受験が終わって、娘にTECHで学べて良かった?と聞きました。

TECHで良かったと言っていました。

成績によってしょっちゅうクラス替えがあったら、自分は潰れていたかもと言っていました。

順位が出たりするのが、かえってプレッシャーになるようで、模試のたびに緊張していました。そのようなストレスがなく過ごせて勉強に集中できたのが良かったようです。

娘にはTECHが合っていて、TECHで良かったなと思いました。

受験における親として一番の願いは、4年生から3年間の貴重な小学校生活を、受験勉強に費やした娘に成功体験をさせてあげたかったことです。

努力の結果が実を結んでほしい、頑張れば報われるという経験をさせたかったので、親も一緒に併走してきました。

時には親子でケンカをするなど、精神的につらいこともありましたが、一緒に目標に向かって取り組むことも、中学生以降はほとんどなくなると思うと親にとっても本当に貴重な体験だったと思います。

大変だったけど受験が終わっていまは少し寂しい気持ちです。

子どもに関わるのが少なくなることと、年中から通った花まる学習会、そしてTECHと、もう卒業かと思うと寂しいです。

先生方、大変お世話になりました。

花まる学習会、TECHに出会えて感謝申し上げます。



Gさん「受けてよかった中学受験」

進学先:早稲田実業

私は幼稚園の年中から花まるに入りました。3年生になり、塾を決めるとき、昼食がお弁当の小学校に通っていたので、昼と夜がどちらもお弁当が嫌だなど思っていました。塾を決めかねていたところ「夕ご飯をお家で食べる中学受験」という標語のシグマTECHがあることを知り、入塾テストをうけ、3年生の3学期にTECHに入ることとなりました。

4年生のころは、志願校をまったくと言ってよいほど決めていなかったため、あまりやる気がでず、シグマテストが結構ひどい点数でも、ほぼ気にしていませんでした。まだ、2年もあると思っていたからです。

でも、その2年はあつという間にすぎます。その2年間のなかで一番辛かったのは、5年生の初めです。

この5年生の初めが辛かった理由は、2つあります。

1つ目は、課題の量や質が上がったことです。

これは、居残りなどをしたくないという思いから、がんばりました。

それで、かろうじて終わらせられ、習得してから、次の単元にすすむことができたのは、よかったと思います。

2つ目は、4年生のころはTECH吉祥寺校がなかったため、お茶の水校に通っていて、吉祥寺校ができ、うつりました。そのとき知らない先生ばかりで緊張し、質問をしたいけど行きにくいという状況がつづき、やっと途中から、緊張しながらも質問に行けたことをよく覚えています。

そして6年生になるとあまり課題の量が増えなかったため、逆に少なくなったと感じたほどでした。

でも模試が増えたため、5年生では模試対策ができていたのに、急にできなくなり、模試ではよけいに緊張するようになりました。

1回目の模試は思ったよりよかったものの、2回目の模試では緊張しすぎて気持ち悪くなってしまい、ちゃんと受けられなかったため、実力がわからないまま夏期講習を迎えることとなったのですごく不安でした。

けれどその心配を考えるヒマもなくなるほどいそがしく、すごく大変でした。夏期講習が終わると時間はあつという間にすぎて、入試の前受けが始まりました。

私は早稲田実業を受けるため、早稲田佐賀を受けました。

このときは、模試より緊張しませんでした。でも理科がすごく難しく、受かっていないと思いました。その次の日の佐久長聖を受けました。

この前受けの時点で、2日連続の入試を経験できたのはよかったと思います。

そして合格発表の時はすごく緊張しました。

けれどどちらもご縁がありとてもうれしかったです。そしてこの発表が自信につながりました。

入試が終わった1月では、とにかく過去問をやりました。

すると、1番最初は40点台だった早実の算数が、最後には70点台をとれるようになったため、これも自信につながりました。

そしていよいよ本番がやってきました。この2月1日の早稲田実業は、前日に緊張しすぎたことと、たぶん合格できないと思っていたため、緊張しませんでした。

けれど2日目は、明大明治で、これで入試が3日で終わるかまだ続くかが決まるため、すごく緊張しました。

結果は合格。

本当に努力がむくわれたと思ううれしかったです。

そして都立の受験を終え、家に帰り、早稲田実業の合格発表を見ました。

このときは、試験で大問を算数で丸々1つ落としていることがわかっていたため、合格していないと思い緊張をしていませんでした。

ところが結果は合格。なんでという思いもありましたが、メチャクチャ嬉しかったです。

自分のことについてひとしきり書いたところで、勉強法について書こうと思います。

私がよく使っていたのは、青メモノートです。

これは、算数の勉強が多くなりつい国語の勉強がおろそかになってしまうときにも、青メモノートで解き筋を自分のコトバにして書くことで、自分でも解答を見ただけでは、わからなかったことがはっきりして、二重の学びができるからです。

次は、受験直前の勉強法についてです。

私は算数が苦手でしたので、算数の6年上・下をもう1周して、その後演習問題集のなかの苦手なところにしばってやり、その後プラスワンを1周しました。×解きでもよいと思います。

なぜなら、何周もやっているプラスワンをすることで、自信をつけられると思うからです。

最後にTECHの良い点について、書きます。

まず一つ目は、同じ仲間と切磋琢磨できることです。

私は、特定の「友人」を作ることが、気をつかわなくていけないため嫌いで、ほぼ話していませんでした。しかし、TECH では2年間同じ教室で学んだため、仲間意識が芽生え、TECHで過ごしている時間はすごく楽しかったです。

2つ目は、先生方が親身になって支えてくださることです。

たとえば受験が終わった後進学先で悩んでいたとき、塾に行って相談をしたら、H先生とK先生が答えてくださり無事進学先を決めることができました。

あのときは、ありがとうございました。

このように先生方は親身になって答えてくださいます。

受験まで支えてくださった先生方、受験をさせてくださった親、

本当にありがとうございました。



Hさん保護者さま「息子に感謝」

進学先:高輪

「がんばるぞ! エイエイオー!」

受験日の朝、親子三人で円陣を組み手を重ね笑顔で家を出発、本当に家族みんなでの受験だったと思います。もちろん一番頑張ったのは息子であることは言うまでもないですが、おっとり&マイペースな息子と親子三人四脚で歩んだ3年間だったと、受験が終わったいま、その時間が宝物のように思い出されます。

第一希望に不合格となり、翌日の第二希望も不合格・・・母親の私でさえ心が折れかかっている状況のなか、息子は2月4日まで本気の5連戦を戦い続けることになりました。もちろんその間に連日連夜、合格や不合格の結果発表という、泣いて笑っての一喜一憂が続きました。

最後の戦いとなった2月4日の朝、「ほんとにほんとにこれが最後。一番過去問をやってきた学校だから、先生達と一緒に解いてきた問題をよく思い出して、全力を出しきろうね!」と声かけをしました。倍率7倍近くになっていたラスト戦・・・募集人数40人に対して校庭に入りきらない保護者の数・・・すべてに圧倒されてしまっていた私ですが、息子は最後まで弱音を吐くことなく「最後に全力を出しきれたと思うよ!」と、私の気づかぬうちにたくましく大きく成長している勇姿がありました。合格発表はネットですが、掲示板で受験番号を見つける形式で、高い倍率のために抜け抜けの番号が並ぶなか「あった・・・合格しているよ。よっしゃー!!!!!!」と叫ぶ息子の声、最後は笑顔で終わることができました。

生活が一変した4年生、課題に追われ苦しかった5年生、苦手科目ととことん向き合った6年生でした。苦手な国語で1点でも稼ぐため、毎晩親子三人で漢字大会を行ったこと、読解問題は私も同じように解き、互いの答えと理由を会話し合ったこと等、息子一人が苦手科目で苦しめない工夫をしてきました。

そんな3年間を経て、息子は厳しい中学受験を乗り切れるだけの、体だけではなく心も、大きく成長していたことに気づかされた受験期でした。こんなにも濃厚な家族の時間を笑顔で締めくくらせてくれた息子に、いまはただただ心からの感謝とお疲れ様の気持ちでいっぱいです。

最後に、弱気になっている私の涙と愚痴に何度も寄り添ってくださったI先生にも感謝しかありません。一度も行きたくないと言わなかった3年間、親友に会い、偏差値だけでは計れない勉強の価値を知り、豊かな心を育むことができた花まる学習会、シグマTECHに通わせて良かったと心から思います。



Hさん「夢のために」

進学先:高輪

・シグマTECHの授業はどんな授業?

そもそも先生がすごくおもしろいので、自然と授業もおもしろく楽しかったです。さらに、楽しみながら大事なことを学べるので、すごくためになる授業でもあったと思います。

・サマーチャレンジや入試直前特訓の思い出

サマーチャレンジや入試直前特訓では、普段より確実に集中できたと思います。なかでもサマーチャレンジでは、「本気は楽しい」を多く経験しました。

・受験で辛かった期間

5年生の9月から12月、6年生の10月から12月でした。いずれも全然成績が伸びず、偏差値も50あたりでした。このときは弱点勉強をコツコツやったり、中学受験のrestartという授業動画を観て、成績を伸ばしました。

・合格発表のとき

合格した入試ではほとんど合格最低点を取れておらず、あまり期待していませんでした。合格したときは本当に嬉しかったです。

・入学してからやりたいこと

僕は鉄道がすごく好きで、中学受験をしたのも鉄道研究部が盛んな学校に行きたいという理由でした。自分の将来の夢は車両デザイナーなので、入学してからは鉄道研究部でたくさん活動したいです!



Iさん「僕の本気」

進学先:芝

2021年2月、僕はシグマTECHに入った。そのときの第一印象は「先生がおもしろい」ということだった。そのため塾に行くことがとても楽しかった。その頃から僕は、朝早く(5時くらい)に起きて勉強するようになった。

そして2022年の2月、僕は5年生になった。そして最初の月例テストで僕は、それなりに良い点を取れた。しかしそのあと成績は少しずつ落ちてしまった。そして僕はある日、K先生にこう言われた「今日からTクラスです」僕は、この瞬間「やばい」と思った。

一気にギアが入った。いままでよりとても頑張って勉強した。それが功を奏し、僕はその約1か月後Sクラスに戻る事ができた。このとき、自分は少し変わったと思う。

遂に僕は6年生になった。しかし僕は、なかなかギアが入らなかった。そして夏休み前の第2回不合格判定テストでもいい点は取れず、芝は合格20%判定だった。

しかし夏期講習が始まると、僕は一気に気合を入れて勉強するようになった。特にサマーチャレンジでは、いままでになく集中して勉強に取り組んだ。そしてその勉強習慣は、夏期講習が終わってもまったく崩れることはなかった。このとき僕は本当に変わった。本気で勉強するようになった。

僕は11月の合不合格判定テストで芝の80%判定を出す事ができた。そのときは本当に嬉しかった。しかし12月の合不合格判定テストの結果は、とても悪かった。芝は何と30%判定だった。しかしよく考えてみれば、すごい成長があった。6年生の最初の方では算数は90点台取れば良い方だと思っていたが、このとき取った点は90点でそれを低いと感じたのだ。また、理社は結果がとても良かった前回よりも伸びている。このようなポジティブな考えをして僕は、そのときを乗り切った。

そして1月10日埼玉入試が始まった。僕は、その日栄東を受けたが手ごたえが非常に悪かった。その予想は命中し、結果は不合格であった。

しかし、僕はあきらめなかった。16日の入試に向けてとても頑張って勉強した。そして16日の栄東の試験の手ごたえは、とても良かった。そして合格することができた。そして僕はこのタイミングで受験校を大幅に変えることとなった。

僕はそれまで志望順位の高い順から芝、高輪、獨協、成城、栄東となっていたが、栄東の合格が得られたことで芝の対策に専念するため芝だけ受けて芝がダメだったら栄東とすることになった。

そして受験前約1か月で僕は今まで苦手だった国語が得意になった。占いで「これまで苦手だった分野も得意科目に変化。特に(中略)語学ね。」〈『2024年度入試用重大ニュース時事問題に強くなる本』(Gakken) P94より引用〉とあったがまさにその通りだった。僕は体調不良で一切試験が受けられないということを絶対に避けるために、無理して勉強をしすぎず、とにかく体調を優先した。これはどの受験生も絶対に心がけてほしい。

そして2月1日がやってきた。芝の入試の手ごたえはまあまあという感じだった。そして20時合格発表の時間が来た。その結果は不合格。泣きに、泣きに、泣いた。M先生にも泣きながら電話した。本当に苦しかった。でも気持ちを切り替え、2月4日の2回目の試験に向けて2日間とても頑張って勉強した。

そして2月4日の試験の手ごたえはとても良かった。合格したと思った。芝から家に帰るときTECHによってM先生と話した。そして21時合格発表の時間となったとても緊張した。発表が21時の1,2分後だったので、その間とても緊張していた。そして結果が出てきた。「合格」それと同時に自然と涙が出てきた。思わず叫び、走り回ってしまった。すぐにM先生に電話をした。本当に嬉しかった。本気は楽しいとはまさにこのことだ。



Jさん保護者さま「母、女優になる!?!」

進学先:本郷

受験前、11月になったばかりの頃、夫が朝食のときにかしこまって話を切り出しました。

「これから受験まで、どうしてもみんなイライラするから、母ちゃん(私)は怒らないように、Tくんは怒られることをしないように」そして、マンガ『二月の勝者 —絶対合格の教室—』(ビッグコミックス)10巻の巻頭だけ読むように渡されました。

そこには、黒木先生が11月の保護者会で

「ここからみなさんは女優になってください」

「この時期の子どもとの衝突は百害あって一利なし」

「いつもニコニコしている親を演じてください」というシーンでした。

この時期の息子は、夏期講習でそれまでとは別人のように一気に受験生らしく勉強に取り組むようになっていたものの、朝は登校時間ギリギリまで寝ているし(これは受験まで克服できずに終わってしまいました)、早く起きたとしても折り紙を折り始めたり、相変わらず少しでも口を出そうものなら反発し、かと思えば、夜、布団に入ると「眠れない」と言って手を握ってきたり、不安な様子が見てとれました。

女優になれるのだろうか…まだまだ受験期に自分たちがどのような精神状態なのか想像もつきませんでした。

息子は、年長のときに花まる学習会に入って以来、担任の先生に導かれるままにThink!Think!、Think!Think!3年生シグマコース、シグマTECHという道歩んできました。

4年生くらいからはさすがに塾に通っているという意識があったようですが、通っている小学校の中学受験率が高いこともあり、受験に対して抵抗はなく、何よりも、息子は4年生になる直前からバレーボールチームに所属し、中学校ではバレーボール部に入りたいと思っていたものの地元の公立中に男子バレーボール部が少なかったことから、中学受験を考えるきっかけにもなりました。

バレーボールチームの練習日にあまり重ならないようにと、通塾日数の少ないTECHを選びましたが(夜ご飯を家で食べるというコンセプトや、日曜探究講座にも惹かれました)、さすがに5年生の時期は課題の量も増えて、学習時間の確保に苦戦していました。

受験間近に息子から聞いたところによれば、この頃は課題もいい加減にやっていたそうです。

息子は課題のことや家庭のルールなどについて、親に口出しされることを嫌がり、元々、私は課題提出のチェックくらいしかしていませんでしたし、よく話に聞くような、親が子どもの勉強を見るというようなことは一切やらせてもらえませんでした。

一度だけ、5年生の1月の志望校判定テストでビックリするくらい散々な結果を残し、希望していたシグマ特訓の基準偏差値に届かず受講できないとわかったときに、息子の要望もあり、夫が国語と算数と理科を中心に弱点を見出すべく

総ざらいしようということになり、少しずつ一緒に勉強するようになりました。

ただ、それは長くは続かず、やはり親子で勉強は無理だということになりました。

我が家は受験期もそうでしたが、朝から晩まで、よく話をする家族だと思います。

5年生の1年間は、少しずつ受験を意識する時期でもあり、親子の衝突が多かったように思います。

自分がやりたいように生きたい息子と、一定の理解は示すけれど不安からつい「課題やったの?」などと言ってしまう私。

できない自分とのギャップ、プレッシャー、あれもやりたい、これもやりたい、いろんな気持ちが押し寄せてきて、親子で話し合ううちに何度か爆発するようなことがありました。

苦しそうに、絞り出すように泣く息子。

そんなにつらいのであれば、受験やめたら?と夫も話をするのですが、それは平行線でした。

6年生の夏前までそれは続き、ものすごいプレッシャーを抱えながら頑張っているのかと思うと私も辛く、別に中学受験をしなくてもいいのではないかという気持ちもありました。

5年生の頃、コロナ禍での学校説明会への参加は、どこも抽選となり、難しいものでした。

文化祭に続き、秋くらいから真剣にいくつかの学校説明会に行ってみましたが、どの学校も良く思っていました。

共学・男子校も特にこだわりはなく、どの学校に通ったとしてもうまくやっていけると感じており、本当に偏差値以外、手がかりがない状況でした。

息子は、5年生の秋に文化祭で訪れたいいくつかの学校のうち、駒場東邦中と本郷中に行きたいと考えるようになっていました。

手がかりとなる偏差値ですら模試を受けても実際のところ、受験までにどうなるかも予測できず、駒場東邦中や本郷中に行きたいと言っているけれど力は遠く及ばない

ところにあるのではないか、先生も偏差値はこれから伸びるとおっしゃるけれど…不安しかないなか、遂に受験生になってしまいました。

受験生になる直前、5年生の1月に息子は大きな決断をしました。

バレーボールチームを一時的にお休みすることにしたのです。

せっかく新6年生中心のチーム構成となり、主力選手として公式試合でプレイできるようになったばかりだというのに、最初で最後の公式試合に出場して休部しました。

ただ、休部したからといって「さあ頑張ろう」と受験生になったわけではありませんでした。

バレーボールの練習がなくなった代わりに、YouTube やテレビをよく見ていました。

逃げ出したい気持ちもわかるけれど、このままでは間に合わないかもしれないと夫婦で焦る気持ちを抱え、折に触れて3人でいろいろ話をしました。

受験に間に合わないかもしれない、という意味ではなく、受験までに自学ができるようになれるとは到底思えず、たとえ受験勉強が終わっても、大人になっても学びは続くものであり、とにかく好奇心をもって欲しい、深く学ぼうとする気持ちを持ってほしいと願っていました。

また、受験生である前に、人間であって欲しいと思っていました。

早寝早起き、家族揃って朝ごはんを食べ、会話を楽しみ、ご飯の後片付けくらいは自分でする、ありがとうを言うことは、しつこく言い続けていました。

自分が生きているのはたくさんの人たちの支えがあってこそ。当たり前のことを当たり前と思わず、感謝の気持ちを持って生きていてもらいたいと思っていました。コロナ禍を脱した時期に受験生として過ごした1年間は、きっとここ3年間の受験生たちが享受できなかった環境が当たり前のように用意された、恵まれた1年間だったのではないかと思います。

対面授業も対面の日曜探究講座、直前期の対面自学室も、すべてありがたく参加させていただきました。

息子は小さい頃から、よく話をしてくれる子でした。

反抗期といわれる時期ではありましたが、切り替えも早く、学校や塾であったことなど本当にいろいろ話をしてくれました。

特に受験期前後はぐんと精神的に成長したのか、自分がいまどういう気持ちでいるのか、こんなことを考えている等、細かな話までするようになりましたし、最後まで明るい受験生でした。

心残りなことは、もう少し早い段階で息子が「聞く耳を持つ」ことができるように、親として誘導してあげることができなかったのだろうかということです。

いくら親があれこれ頑張ってお膳立てしたとしても、自分で気づいて行動しない限り、この先、中学高校に進んでもきっと成長はないと思っていました。

待つというのは、本当に親にとって苦行でした。

受験生になったばかりの頃まで、待てずに何度口出ししてしまったことかわかりません。

でも、少なくとも夏期講習以降の息子は、本当に受験生になり、自分で何をしたらいいか考えスケジュールを組み立てて、コツコツ実践していました。

面倒くさいと言って避けていたバツ解きや言葉調べなども、受験生になりたての自分に言ってやりたいと口にするほど、大事なことだと身に染みてわかったようでした。

特に直前期の、1か月の鬼気迫る追い込みとも言える勉強の仕方には、本当に心を打たれ、何としても第一志望校に合格させてあげたいと願いました。

冬期講習以降は、散歩がてら早朝のコンビニに過去問のコピーをしに行き、夜、自学室から戻った息子と夕飯を食べながら、今日は何をしたか、何か困っていることはないか、明日は何をしようと思っているのか聞き出し、マネージャーに徹しました。

1月は本人の希望もあり、学校をお休みしました。

そうすると、塾の友達との帰り道のたわいもない話をする時間が唯一のフラットな小学生らしい時間だったのではないかと思います。

塾の授業の帰りはもちろん、自学室に行けば誰かがいて、帰りが遅いなど思っていると「いま〇〇と□□と解散しました!」とチャットが届きました。

一緒に過ごしてくれた塾の仲間たちには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

1月の初戦、埼玉入試から始まり、千葉入試も2校受けました。

いずれも、通うことを想定しての受験でした。

受験校選びの段階で、先ずはできる限り夫婦で学校説明会などに参加し、お互いの印象などをエクセルで表に整理して共有しました。

我が家の場合は、中学・高校に行っても続けたいバレーボール部がある学校という条件を満たしていることが大前提でした。

6年生の春と夏には、合同説明会に足を運んで、より広く情報収集をしました。

合同説明会は一度にいろいろな学校の先生方とお話ができるので、だんだん楽しくなり、3回ほど参加しました。

ただ、志望校の最終確定をするまで、千葉・埼玉以外に新たに「通わせたい」と思える学校が見つからず、結果的にはずいぶん攻めた併願パターンだったように思います。

埼玉も千葉も、普段まったく縁のない土地に朝から行くということで、去年の受験を体験した友人からのアドバイスで、12月には試験日の同じ曜日に合わせて、電車に乗って学校まで行ってみました。

普段の混雑状況や生徒の登校の様子なども見る事ができました。

当日の天候や、息子の好み(バスより徒歩が良いなど)、到着時間なども考慮して、2~3パターン用意して、直前にプリントアウトして持って行きました。

それでも、朝早くて暗く、想定と違う出口から出てしまったため、駅とは反対方向に向かって歩いていたことに息子が気づいてくれたりもしたことがありました。

初戦はとにかく電車が遅れたり混雑で気分が悪くなったりしないよう、前もって想定している他のルートも確認しに行ったりもしましたが、それでも当日は不安で不安で、緊張もして、どうにかなりそうでした。

実は初戦の日を終えて、夫とケンカをしてしまいました。

東京に戻って息子を自学室へ送り出し、一仕事終えて帰宅した私に、お疲れ様の一言もなく、東大宮駅で買ってきたお団子が自分の分がないことで

「何で僕のことを少しも考えないのかな」などと言う夫にムツとしてしまい、いままで張り詰めていたものがプチッと切れ、「送迎とか出願とか、過去問の整理とか、私一人で全部って訳じゃないけど頑張っているのに、どうしてお疲れ様の一言もないの?」と言い放ってしまいました。

普段ケンカというケンカもしないのに、こんなときにお困りなんかでケンカ・・・中学受験離婚っていう文字も浮かびました。

自分にも十分起こり得る話なのかもと思いました。

いま思うと、一番緊張して心が落ち着かなかったのは、初戦の埼玉入試のときだけでした。

受験というものがどういうふうに進んでいくか、まったくわかっていなかったのも、いくらいろんな想定をして準備していても不安で不安で仕方ありませんでした。もちろん、息子にそんなことは言えないので、必死でした。

埼玉と千葉入試では、息子はいつも受験会場に向かう電車のなかで、毎日の計算などに取り組んで到着するまでに頭の回転を良くするんだと工夫していました。

11月の保護者会では、あまり早くに会場入りしてしまうと緊張するので、集合時間の40分前に到着をと言われていましたが、特に埼玉千葉入試は遠出をすることも時間余裕を持っていましたし、息子も早く会場入りして、いつものルーティン勉強を試験会場で行う、ということをしていました。

埼玉入試から約10日あいて千葉入試、また約10日あいて東京本命入試。

この10日間隔の受験スケジュールが、気持ちを整える時間としてすごく良かったように思います。

埼玉入試は「自信ないかも」と言っていたのでドキドキしながら合格発表を見ました。「東大クラス1年間特待合格です」という画面を見たとき、息子のそばで叫んでしまいました。

I先生には秋の個人面談のときに、「特待は難しいかもしれないけれど」と言われたと記憶していたので、本当に驚きました。力がついてきているのかもしれない、そう思えました。

市川中学の次の日の東邦大東邦中の入試の朝、息子を何度起こしても起きてきません。

私は焦って大声で何度も起きよう言いました。

すると、ふてくされて、起きてきたのは出発15分前でした。つい怒ってしまったけれど、こっちは必死でした。

その日は雪予報は外れたものの、朝から冷たい雨が降っており寒くて気を使いました。

でも、終了時間には雨も小降りになり、小学校の仲良しの同級生と校舎から出てきて安心しました。

冬休み以降ずっと学校を休んでいたのも、久しぶりの友達との再会、私も母同士、久しぶりに少しゆっくり話ができて、ここまでのしんどい気持ちが一気にほぐれていくのを感じていました。

1月受験校のなかで一番行きかけた市川中は、残念ながらご縁がありませんでしたが、その合格発表の次の日、東邦大東邦中の合格発表では合格をいただきました。

当然本人は第一志望校のことしか頭になかったようですが、親としては2つもお守りをいただき、本当にありがたかったです。

埼玉と千葉の入試が終わると、いよいよ第一志望校の入試が迫ってきました。

でも、特にそれまでと変わったことをするわけではなく、気持ちが静まっていったのを感じていました。

本人はどうだったかはわかりませんが、黙々と毎日自分で決めたことを繰り返していたようでした。

2月の東京入試がいよいよ近づいてきた頃、まだ志望校などこれっぽっちも決めていなかった時期に夫が買ってきた、さまざまな中学校の基本データが掲載されている冊子を息子が見ており、駒場東邦に合格したいなあと言いました。

カタログショッピングのように、選んだ学校の合格が買えたらいいのと言いました。

お金を出して買ってあげられるモノであるなら買ってあげたいけれど、合格は自分の力で掴み取るしかないのだよ、と私は言いました。

埼玉と千葉の合格は、息子がいろんな人の助けを借りながらも自分の力で掴み取ったモノだと自信を持って欲しかったのです。

東京入試の前日、とにかく健康な心と体で臨めることに感謝しました。

あとは私が笑顔で送り出すだけ。そう思っていました。

息子は「算数、どんな問題が出るかな」と楽しみにしている様子でした。

2月1日。すっきり晴れて、駒場東邦中がある高台からは富士山がきれいに見えました。

本当に私の心もスッキリ晴れ晴れとしたものでした。

先生方が勢ぞろいした Zoom 応援を受け、落ち着いて会場入りして教室に入るアナウンスがあるまで、息子は食堂でいつも通り、計算をしていました。

入試は算数と理科が難しかったけれど、特に大好きな算数は難しいと感じた最後の大問に時間を費やしたと言って、夜、解答速報を見ていました。

すると、苦勞して解いた最後の大問を正解していた!と部屋を駆け回り飛び上がって喜んでいました。

夜遅くまで他の教科の解答速報を見ており、ダメかもしれないけど、もしかしたら合格しているかもしれないと少しの希望をもって寝ました。

2日目の本郷中は1日の入試結果がわからないなかでの受験だったため、不安で本当に苦しそうでした。前の晩に入試速報などを見て大まかに採点をし、ダメかもという気持ちだったのかもしれませんが。

私も帰って一人で合格発表を見るのが怖く、歩いて自宅まで戻りました。結果は不合格でした。

本郷中の入試を終えた息子に結果を伝え、昼ご飯をゆっくり食べて、次の日の早稲田中の入試のためにも切り替えて、また自学室へ送り出しました。

本郷中の合格発表は当日の夜でしたが、先生にも相談し、息子も私も結果を見ずに次の日の早稲田中の入試を迎えることにしました。

息子は算数ができたので合格しているような気がすると言っていました。

そのとおり、合格していたのです。

1年前に志望校を何となく決めた頃には、第二志望校とはいつつ、2日目の本郷中に合格する力などなかったと思います。

本当に合格したのか、何かふんわり夢のような気持ちにもなりましたが、合格していました。息子の中学受験は終わりました。

1月の冬期講習が終わり埼玉受験が始まった頃は、第一志望校へ少しでも近づくために、もう少し受験生でいさせてあげたいと思っていましたが、千葉入試が終わってよいよ2月という頃になると、ここまでよく頑張ってきた、きっと大丈夫、よし、行こう!という清々しい気持ちに、そして、第一志望校の受験が終わり、2日目になると、早く受験から解放してあげたいと思うようになりました。2月のたった3日間でありましたが、本当に一日一日が長く感じました。

第一志望校だった駒場東邦。

初志貫徹で、第一志望校を変えずに挑戦出来たこと、駒場東邦という最難関の素晴らしい問題に立ち向かえる経験ができたことは、この先の息子の人生にとって、決して無駄ではなかったと信じています。

TECHの良いところは、沢山ありますが、個別指導もその一つだと思います。

息子を乗せながらも悪い癖を見抜いて、上手に伝えてくださっていて、親だとうは行かないなと感心していました。

T先生の授業前後の雑談での、

「男の子はスロースターター。秋以降ぐんと伸びるから大丈夫」

「君は本当に伸びている」

「中学に行って数学が変わってもやっていける力がついてきている」

という言葉に、私もずいぶん励まされました。

6年生の夏期講習以降は特に、先生方がタイミングよく、息子の様子を見ながらアドバイスしていただいているようで、心強く感じていました。

I先生には、初めての面談以降、ざっばらんにお話を聞いていただき、コミルではたくさんの質問を投げかけ、息子の取り組みが心配なとき、頑張っているなど感じたとき、いつでも共有させていただいており、本当に感謝しかありません。

10月のサピックスオープンの結果を見てからの学習計画の軌道修正には、心躍りました。

受験に向けて完全にギアが入った瞬間だったと思います。

あそこから、私自身もまた頑張ろうという気持ちになれたことは確かです。

本当にありがとうございました。

T先生には4年生のときから見ていただき、受験生になってからは授業中や自習室で、息子がたくさん質問をしていたと聞きました。

理科以外も質問したようですが、理科といたらT先生と頼りにしていたに違いありません。

他にも息子が信頼している先生はたくさんいました。

TECHに入って以来、お世話になった先生方、花まるから数えても、本当にすべての先生やスタッフのみなさんのお力を借りながら、親も息子も最後まで進んでこれたと思っています。

この場をお借りして深く御礼申し上げます。

幸せな受験。スクールFCもTECHもそう表現していますが、まさか自分がこんな幸せな思いができるなんて、想像もしていませんでした。

受験を通して、心身ともに成長していく息子の姿をそばで見ることができました。家族、支えになってくださる先生方とともに、タッグを組んで受験を終えられました。夫とはもちろんですが、息子と毎日たくさん話をして、より一層信頼しあえたような気がしています。

女優にはなれませんでした。母は本当に本当に幸せでした。

中学受験をしてよかった、心からそう思っています。

これからは、もっともっと広い世界があることを自ら発見し、羽ばたいて欲しいです。きっとできる、と信じています。

「誰にも負けないことをつくりたい」と、息子は再び前を向いて歩き始めています。

ありがとうございました！



Ｊさん「悔しさと…」

進学先:本郷

僕は、元々花まる学習会に通っていたことから、シグマTECHに入りました。TECHの先生方は、フレンドリーに話してくれるので、質問がしやすかったです。また、TECHが開いている自学室は、家でやると集中できない僕には好都合だと思ったので夏休み後は利用し、12月からは毎日のように行っていました。

そのなかで重要だったのが、QAノートや言葉ノートなどです。4年生や5年生のときは、やる意味がわからず、また、面倒臭いと思ったので、課題に出ない限り、やっていませんでした。
(課題にあってもやらなかったことも…)

しかし、6年生になってから、(特に夏休み後)その重要性に気づきました。なぜなら、僕が同じ所で何回も引っかかっていることに気がついたからです。そして、QAノートを書くようになってからは同じ所で間違えることは、ほとんどなくなりました。

僕が受験勉強をしていくなかでつらかったのは、テストの結果が悪かったときもそうですが、理科、社会の成績がのび悩んだことなどの理由から、11月あたりに大好きだった算数の勉強を控えるように言われたことです。
(それによって、最後の模試では理科の偏差値が算数を超えました)

また、スランプになってしまったら、泥臭いものをひたすらやり続けてください。

例えば、音読や漢字、×解き、再解き、○×チェックなどがあげられますが特にやった方が良くと思うものは、×解きと○×チェックです。この2つは、やっているときは意味がわからなくても、後々その意味がわかってきます。

受験勉強をしていて、一番悔しかったことは、千葉・埼玉入試が終わったあとの約10日間、第一志望校だった駒場東邦中学校に合格することだけを考え、毎日何時間も必死で勉強していたのにも関わらず、2月1日、一回限りの入学試験で不合格となったことです。

僕が、本気で勉強するようになったのは、サマーチャレンジ1日目の夜、学校で一番仲の良い友達の第一志望校が渋谷教育学園渋谷中学校だということを知ったことで、「アイツもがんばっているのだから、僕も本気でがんばらないといけない」と思ったからです。それによって、それまでより、さらに勉強するようになりました。

そうして勉強をするなかで、眠かったり、集中できなかつたり、遊びたくなるときもありました。

そんなときには、「眠かったら寝る」「集中できなかつたら放っておく(そのうち自然と集中できるようになる)」「遊びたいなら算数をやる」という風に解決していました。

そしてTECHの教材として、課題表があげられますが、そのシートに書く1週間のスケジュールは、とにかくハードに立てた方が良くと思います。そうすることで、絶対達成してやるという気持ちになり、スケジュール通りに行かなくても(達成することができなかつたとしても)それなりの勉強量になるはずで

また、出されている課題をしっかりと終わらせるためのコツは、『自分だけの課題の欄に好きな教科の勉強を書く』ことです。

そのようにすることで、その好きな教科をやるために必死で課題をやり、結果的に課題が終わります(自分だけの課題を先にやるのはナシです)。

また、好きな教科がなかったら、オススメの教科は算数です。

算数が得意になれば、配点が高いし、得点源にもなるからです。

もし、不得意な科目があったら、基礎などの、非常に泥臭く、面倒臭く、辛い作業を行いましょう。

その努力はしっかりやると必ず報われるはずですよ。

では、僕が実際にやっていた勉強法をお話します。

まず、算数は好きな科目だったので、他の科目と比べて勉強をしているという感じがしませんでした。その分、間違えたときにはすごく悔しくて、間違えてしまった問題があると、類題を探して(ない場合は作って)5問くらい解いていました。

次に、社会は、主に夏休み後になります。過去問を解いていく際に、わからない人物、建造物、単語が出てくると、その物(事柄)について知らなくても良い所まで知ろうとしました。

次に理科です。僕は理科という教科のなかでも、特に化学分野が好きで、そのなかでも元素が好きだったので、(この方法は家でしか通用しませんが)理科に限らず他の教科でも、少し頭が混乱してしまったら元素周期表を見てリラックスし、落ち着いたらもう一度その問題を解いていました。僕が算数をやるなかで役に立った問題集は、『中学受験[図形・場合の数]の合格点が面白いほどとれる本』(中経出版)です。

このテキストは、難関私立、国立中学の問題が数多くあり、予習シリーズなどのテキストと比べ、問題のレベルが少し高いので、オススメです。

次に、理科を勉強するなかで役に立った問題は、『改訂版 理科コアプラス』(日本入試センター)です。

このテキストは、徹底的に基礎を固めることができ、僕の理科の偏差値を2か月くらいで10以上もあげることができたからオススメです。

理科や社会の過去問をやるなかで大切なことは、声の教育社などが用意してくれた詳しい解説を読み、わからないことがあったらすぐにQAノート化することです。

そうすることで、知識の定着を図り、二度と間違えないぞという自信もつきます。

また、算数の過去問で間違えてしまった問題があれば、その問題の解説を見て、数字を言葉に置き換え、(それを覚えてうえで)自分で、数値だけを置き換えた類題を作り、解き、その形式の問題が出て二度と間違えないようにすると良いです。

受験直前のラストスパートには、第一志望校か、そのとき解いている問題のことしか考えないようにしましょう。

邪念が入り込んでしまうと、集中の妨げになり、勉強している内容が、うまく頭に入り込まなくなるので、気をつけましょう。

また、僕が2つの志望校を選んだ理由を紹介します。

まず、駒場東邦中学校は制服の恰好良さもそうですが、数学部の「2024年入学試験予想問題」のような、その年の入試問題を予測した物を見て、すごく興味が湧いたからです。

次に、本郷中学校を選んだ理由は、「本数検」と呼ばれる算数の試験があり、定期的に算数だけの試験があるということが良いと思ったからです。

入試当日、僕にある悲劇が起きました。

それは、1月10日、初めての入試である栄東中学校を受験する前の道の途中、先生方の入試応援メッセージを受けようと、母と携帯電話でZoomを開こうと

しているとき、前方不注意だったことから、目の前に立ちはだかる電柱の姿に気づかず、お察しの通り電柱にぶつかってしまったことです。

みなさんは、そのようなことが起こることのないよう、「歩きスマホ」や、「ながらスマホ」などはしないようにしましょう。

僕は、本郷中学校に入学したら、中学受験に出ることは絶対にないという理由から、覚えなくても良いと言われ、覚えられなかった、元素118個や、1000以下の素数をすべて暗記し、言えるようにしたいです。

また、受験勉強をやったことで、勉強が楽しいと思えるようになったことに加えて、勉強を日常的にやるというとてもすばらしい習慣がついたので、漢字検定や数学検定にも挑戦してみたいです。

そして、何故自分はここまでやり切ることができたのかを考えてみました。

それは、多分算数が大好きだったので、それをやる気にしてやることができたのではないかと思いました。

最後に、TECHに入って良かったことは、大きく2つあります。

1つ目は、課題表という制度です。課題表があったことで、課題へのモチベーションが上がり、早く課題を終わらせてやるという気持ちが強まりました。

僕は、この課題表という制度があったことで、課題を1つひとつ終わらせることに快感を覚えて、勉強をするということが好きになりました。

2つ目は、先生方です。4年生の頃の僕は、大変不真面目で遊んでばかりいました。そんな僕をどんどん成長させ、真面目とまでは言えなくても、「不真面目ではない」となる自信を持って言えるぐらいになりました。

僕は、TECHで培った経験を元に、中学校に行っても、がんばって生きていきたいです。



進学先:本郷

花まる学習会に入ったのは1年生でした。

小さい頃は、体験すると全部やりたい積極的な子で、野外体験、アルゴクラブ、Think!Think!といろいろ体験しました。

学校では落ち着きがなく、1年生は怒られてばかりで担任の先生から呼びだしもあたりして、花まるは、勝負に勝ちたい気持ち、やりたくてウズウズするような気持ちを肯定してもらえる場所になっていると、ありがたく思っていました。

受験をしようと決めていたわけではない我が家でしたが、シグマTECHという選択があるよとお話をいただいたとき、受験のことはよくわからないけれど、週2日の通塾、夕飯を家で食べるというスタイルに、他の習い事も続けつつ、無理のない受験ができるかも!という思いから通うことに決めました。

でもそうはいつてもしんどかったー、というのが正直な気持ちです。無理がないって何だろうとか、うちにとっての幸せな受験って何だろうか…と悩んだり、沼にはまっているような気持ちになり、やりたいことをやりつつなので、メリハリが大事だけれど、なかなかうまくいかずに息子にイライラしましたし笑、何故ー!と思うことも多くて。その世界に入らないとわからないことが沢山あるのだな、と実感しました。

終わったいまは我が家が最初に決めた、小学校生活を楽しみながら受験勉強する方針を貫けたのは、やっぱりTECHだったから!と思っています。

もちろんその方針が本当に正しいのかは問い続けていましたし、特に6年生は、全部中途半端な気がして悩みました。コロナ期間を経てオンラインが普及して、TECHでもオンライン活用の恩恵を受けている反面、端末等の機器との闘いという感じ

でした。学校端末は、使い放題で制限が出来ません。YouTube も見られるし、検索機能もあります。仕事で不在の両親なので、いくらでも使えてしまい…Switch や iPad、家の PC にいくら制限機能があっても無駄です。すべては本人のやる気次第でした。

そのため、逆に習い事や友達と過ごす時間はいい区切りにもなりました。

息子は最後まで、TECHと曜日が被るもの以外は、習い事を辞めませんでしたし、直前期の1月にも1日も休まず登校しました。11月に他の習い事の発表会に参加したり、12月の学校対抗ドッジボール大会にも友達と参加し、もちろんそれには練習がありましたから、自学時間は限られ、それでも学校と給食が大好きで、学校の卒業プロジェクト係も引き受け、本当にやりたいことを諦めない受験でした。

終わったいま、I先生がおっしゃっていた、小学生時代の豊かさや幸せを諦めず中学受験を通じて、子どもも家族もともに成長する!ということが我が家は経験できた!と思っています。うちには学校生活も受験も習い事もどれも大切でした。家族も成長したと思います。

とはいえ、渦中には…課題等、9割できたことを無視して1割の出来ないことに怒ってしまったり、他の受験生情報が溢れているので、焦りを感じたり、これ言っちゃダメだと思っているのに、言ってしまうと反省するのに、またきっかけがあるとってしまったり。親の欲や心配や、夫婦の思いの違いや、中学受験生の親の経験する一通りを、おそらく経験したと思います。

不安から、コミルのお問い合わせを質問のつもりで作成し始めたのに、愚痴のようになってしまったこともあり、いま思うと恥ずかしいです。

でも何が客観的になる自分の助けになったのかというと、あとから考えてみると通勤途中等に読む小説で、受験を題材にした小説だったかなと思います。『翼の翼』(光文社)、『息が詰まるようなこの場所で』(KADOKAWA)、『勇者達の中学受

験~わが子が本気になったとき、私の目が覚めたとき』(大和書房)等いろいろ読みました。夫も読んでいたと思います。

最難関校を目指していたり、うちとは違う部分も多くありますが笑、溢れる情報に飲まれずに冷静になる助けだったように思います。漫画の『二月の勝者 一絶対合格の教室一』(ビッグコミックス)も全巻読んだことがあります。直前期は、同じ時期の巻を借りてきて読んでいました。息子も海斗くんとかまるみちゃんを話題にしなから、親子で時期的なものを意識出来たと思います。それに、先生にいろいろ相談できたからというのも大きいと思います。最初、先生との距離感がわからなくて、でも思い切って相談すると、息子の嘘がわかったり、自分の見えているもの以外がわかったというか…なるほど!そんな風に捉えるんだ!と思うこともありました。

やはり中学受験、親は忍耐力が必要だな、と思うのですが、息子は息子で変わらないようできて、少しずつ受験生になっていきました。毎年行っていた花まるのサマー学校、最後の年だけ、TECHのサマーチャレンジを自分で選びました。オンラインは、自分は怠けてしまうと気づいて対面を週2にしました。(YouTube などの動画を見ながらも授業が受けられてしまうので。)朝夜TECHだけは絶対に入ろうと約束しました。直前期の1月、学校は休まないけど、早退して、少しでも早く自学室に行きたい!と言ったことや埼玉受験続けて不合格になり、このままではマズいとそこでスイッチが入り、下校後、両親不在でも自学していたと思います。見てないので多分ですが…

私は私で過去問のコピーでコンビニに行くのは、最初かなり不慣れでしたが、段々と慣れてきて、仕事帰りに寄るスーパーで、コピーをするのが日課になり、みんな慌ただしく買い物している時間、スーパーのコピー機は空いていたので穴場でした!

最後に、小さい頃からお世話になった先生たちが入試応援にかけつけてくれるんだ!ということに親子で感動して嬉しいね~と言いながら、2月1日、受験校の校庭で息子を見送りました。

大変お世話になりました!
ありがとうございました!



Kさん「算数克服受験」

進学先:本郷

僕は、3年生までの花まと Think!Think!でお世話になった先生に勧められてシグマTECHに入りました。通い始めた頃は火曜日と金曜日が楽しみでした。社会のカルタが特に好きで4度あったカルタ大会で3度も優勝できました。

勉強習慣を身につけるために、僕はゲーム好きだったので朝夜テック | 時間入ったらゲームをして良いというルールで6年生まで朝夜テックに入り続けることができました。

TECHの先生は明るくいつも元気で勉強のことだけではなく生活のアドバイスをたくさん教えてくれました。

僕は5年生の秋頃から6年生の夏頃まで少し怠けていたせいで全体的に成績が下がってしまっていたけど、I先生に夏休み前に叱咤激励されたことで心が変わって、特に算数の四科のまとめを夏休みに鍛えました。

それにより9月の模試の成績がかなり上がりました。でも、そこで油断してしまい10月の模試の成績が下がってしまいました。

そこでI先生に相談したら、『算数/プラスワン問題集』(東京出版)を鍛えることになりました。

志望校は部活が盛んで、家からも近かったので選びました。

3つ上の同じ小学校の先輩もいたので10月頃に決定しました。

夏休みのときよりも時間がなかったのでもうしたら時間をとれるか考えて、

冬までになんとか終わらせました。

夏が終わり、寒くなり始めると朝起きられなくなってきたので、5時30分に起きて6時までゲームをして良いというルールを作って朝テックに入りました。

冬からは本郷の過去問と一行問題をひたすら演習しました。

夏からずっと自学時間の休憩時間をひたすら楽しみに取り組んでいました。

帰りもみんなと一緒に帰ったりしていました。

冬の講習、入試直前特訓を経て勉強を楽しいと思えるようになりました。

1月になっても僕は学校に行き続けました。

単に家にいても集中できないというのもあったけど、やっぱり友達と喋るとストレスが溜まりにくかったので行き続けました。

1月10日の栄東、1月12日の大宮開成は初めての受験ということで緊張しすぎて不合格になってしまいました。

特に大宮開成は偏差値的にも余裕だったので結構ショックを受けました。

でも、I先生にすぐに質問して間違えた理由などを徹底的に洗い出して、

1月14日の大宮開成、1月16日の栄東の対策をしました。

14日は先生たちの入試応援で緊張を和ませることができて、無事合格しました。

16日は駅をすぐ出たところにある喫茶店に入り、軽食をとってから学校へ向かいました。

2月も喫茶店には入ったので、受験前に喫茶店などで軽食をとるのはオススメです。

栄東を合格したあとは、ひたすら本郷の一行問題の過去問などをやり込みました。

2月1日本郷では喫茶店を出て、学校に向かっている途中で知り合いの先輩とも会えてかなり緊張がほぐれた状態で入試に臨めました。

最初の教科が始まってからは、10秒間目を瞑って心を整えました。

本当は、合格発表を城北のあとに見るはずだったけど、気になってしまい城北の前に見ることになりました。元々手応えはあったので合格発表を聞かされた瞬間は、嬉しさよりもホッとした気持ちのほうが強かったです。2日の城北も同じ感じで取り組んで無事合格できました。

僕はこの受験で嫌いな教科でも努力すれば克服することができるということと、勉強が楽しいということを知ることができました。

入試前の先生たちからの応援などが力になりました。

僕は本郷で文武両道を目指して頑張っていきたいです。

ゲームもテレビもあまり制限せず、1月も学校に行き続けても合格できたのは先生たちのアドバイスとフォローのおかげです。

本当にありがとうございました!!



しさん保護者さま「越えられる、か」

進学先:お茶の水女子大附属

「幸せな受験」。

そんなことが本当に叶うのか。

探究学習に興味津々、胸が高鳴る。門を叩く。

晴れてシグマTECH吉祥寺校第一期生として入塾する。

約2年前のことでした。

そしていま、中学受験を終えて見えた景色がある。

我が家にとって、「結果=幸せな受験」だけではありませんでした。

別の角度から切り取る。

塾に向かう道中で見かけたツバメの巣、庭でアヒルを飼う家、満月の夜、

花の香り、寒空に啜った温すぎるうどん…塾と自宅を結ぶそこには会話や景色、香りが彩る。

これから先の人生でもきっと思い出す「幸せな受験」の一部。

きっと忘れられない記憶。

莫大な学習量に面食らい、泣きごとを言いながらも喰らいつく日々。

課題も出さず、受験勉強をやめるように突き放すことも。

やらなければならないこともわかっている。

弱音を吐きたいだけなのに感情をぶつけ合うことも多々。

「何が幸せなんだろう」と戸惑う。

このときはまだ、志望校も決まらず、ビジョンも見えていなかった。

コロナ禍を理由に、5年生では学校見学に一度も行かず仕舞い。
制約も多く予約は満席の文字が並ぶ。

そこで6年前半はアンテナを張り巡らし情報をキャッチ。

説明会や学校見学、学園祭など一緒に出かけました。

実際に足を運ぶとイメージしやすいようでした。

人数や回数等制約もまだまだ多く一瞬で埋まる説明会も多数。

今後は、だいぶ緩和されるのでしょうか。

夏休み中に探究学習の一環で私学相談会に参加(事前予約制)しました。

息子からのたつての希望。

さまざまな学校を調べて、質問ノートを作成。

限られた時間内で、興味のある学校の先生へ拙いながらも自分から質問することができました。

部活のこと、学校一番のアピールポイント、どんな生徒が多いか、どんな先生がいるか…など。

話が弾み脱線する先生もいました。

一度に多くの学校情報を自身で収集できたこと。直接先生と話せたこと。

それは自分への挑戦でもあり、ひとつ壁を越えられた?!と感じた瞬間でもありました。

この相談会を通じ息子のやる気もアップ。

その後は理科と社会の遅れも埋めるべく、自学室利用を増やしていき2学期からは国語補習講座も受講。これが息子にフィットし、苦手だった国語を克服

していくことができました。

志望校はとても迷いました。

学校を見学すればするほど迷い、家族で何度も話し合いました。

しかし、家族の気持ちは固まっていました。

息子の希望を最優先にし、広い視野を持ち、チャレンジの幅を広げ、環境を整えられることを考慮して決めていきました。

成績が振るわないことも多かったのですが、志望校が決まってからは、まさに『本気は楽しい!』を体現していたように感じます。

いよいよ受験シーズンが始まる冬期講習直前のこと。

母が突然の入院。それまでの生活が一変。

母の入院中は、不安も見せずに目の前のことに集中し努力していたようです。

1月入試は、退院した母が帯同できました。

その1月入試は、成功体験とチャレンジ体験ができる学校を、先生と相談し挑戦。

その後、入試を終えると、張り詰めていたモノが突然切れてしまった息子。

母の入院中、自分を追い込み奮い立たせていたのでしょう。

2月入試本番10日前から学校を休み、午前中は家で過去問。

お弁当を持参して昼は一緒に公園でリフレッシュ。

午後から自学室へ行く生活。

息子の目標も「自学室へ行って勉強すること」でした。

「質問もすぐにできるし、集中できる」と。

息子は入試直前期のルーティンを、全力で挑んでいました。

この時期の学習は1月受験の結果を受けて気持ちはとても前向きでした。

2月の出願は1日～3日まで。

結果を受けて、その後の出願を考えて挑戦する予定でした。

試験当日、会場付近で Zoom を ON。

ガチガチに緊張している息子もH先生の顔を見た瞬間に笑顔。

「大事なことを伝えます!笑」と声をかけられ、力をもらい、気合も入れてもらい。

いつも通り楽しく冗談なんかも言いながら会場へ向かいました。

笑顔だった息子の顔が校舎に入るときにピリッと引き締まりました。

こちらを振り返ることはありませんでした。

「いってらっしゃい」と心で見送りましたが、その後ろ姿はとても頼もしい姿でした。

母として合否関係なくこの瞬間に立ち会え、応援してこられて良かったと本当に思いました。

2月。1日目は午前・午後受験。帰宅後は疲れも見せずに、合格発表の時間を待ちました。

そして発表時刻。

その喜びを真っ先にH先生に伝えたく電話をかけました。

とても嬉しい瞬間を先生と味わえました。

その後2日目を終え、いよいよ本番の3日目です。

試験会場付近で Zoom に入り「大事なことを伝えます!笑」といつも通り、力をもらい、気合を入れてもらい会場へ入りました。

試験を終えて出てきた息子の顔は清々しく、やり終えたぞ、という満足気な表情でした。

発表の時刻

ドキドキする

ポチッ

画面の桜色

その瞬間涙が溢れました。

中学受験を通じて頑張る息子を応援し、ともに学ぶ日々でした。

大したサポートはできませんでしたが、合格を喜ぶ姿を見られて本当に嬉しかったです。

実は我が家は、姉の高校受験、兄の大学受験と子どもたち三人トリプル受験でした。

もっといろいろと関わったのではないかと振り返ってしまう母がいます。

しかし子どもたちは、「受験」と言う経験を通じて、人生の修練をしているのでしょう。

中学受験を通じて、親子で関わった時間、子どもの成長を直に感じる瞬間、そこに立ち会え分かち合えたこと、それが「幸せな受験」に通じていたと感じます。

息子にとって「いま何が重要か」を常に考え、悩み、対話し、挑む…これらを伴走支援していただいた先生方と、そして、ともに学び挑み励まし笑い合えた仲間と出逢えたことこそが、最大の「幸せな受験」で得られたことに違いありません。

H先生、そして共に挑んだ塾生のみなさんには心からの感謝を申し上げます。

ありがとうございました。

「これからも自分の進むべき道を、自分の足でしっかりと踏みしめていてもらいたい」

母はそう願いながら、「幸せな時間」に戻れるあの道を、ひとりで通りすぎるのだろう。



Ｌさん「感謝の気持ち」

進学先:お茶の水女子大附属

僕がTECHに通い始めた頃は、すごく人見知りで、あまり発言もできず積極的でもなかったし、発言も少なかった記憶があります。

でも、少しずつ馴染んでいきました。

自分のなかでもTECHは特別なところだったな、と感じています。

例えば、僕は、いろんな塾に通ったりしていました。そんな僕が感じたのは、「塾なのにこんなにワイワイしている」ことです。普通の塾だと、先生の話聞くだけで終わってしまうけれど、みんな発言をしてみんな楽しんでできる、そういうところがよかったです。

僕は、ノートを綺麗に書くことがあまり得意ではなく、汚くなってしまって、いつも復習ができなくなっていました。

しかし、先生にサポートしてもらいながら、書いてみると、すごく綺麗になって、半分諦めていた復習もちゃんとできるようになっていきました。

僕は学校を偏差値で決めるのではなく、学校の良さや自分に合っているのか、この見極めて志望校を決めました。

受験前、最後の模試のときに、思うような結果が得られませんでした。それが、すごくまずいと焦り始めて、何度も何度も自学室に行っ、少しでも家にいる時間を減らそうと思いました。

なぜなら、家にいるとゲームや YouTube などの欲望に気を取られてしまい、勉強する時間がまったくとれないことが僕にもわかっていたからです。

だから、自学室に行こうと決意しました。

自学室に持っていく教材は、課題ではなく、基礎をトレーニングする問題(四科のまとめなど)を持っていき、わからない問題は先生に聞きにいき、わかったときはもう一度その問題を解いていき、学力が上がったという感触が得られました。家族にも自学室に行く時間を少しでも長くして、少しでも早く寝るように言われて、生活習慣が整っていったと思います。

入試当日、僕は心臓が飛び出すくらい緊張していましたが、先生という特別な存在に励まされ、元気が溜まり、「頑張るぞ」という気持ちが湧き上がって入試に臨みました。

合格発表のときは、いままで一番緊張したと思っています。そして、第一希望「合格」という文字が出て、嬉し泣きをしてしまったことをいまでも覚えています。

この感動を忘れないと心に誓っています。

そして、それをTECHの先生に電話で報告すると、ものすごく褒めてくれて、褒められることってこんなに嬉しいことなのだ!と思いました。

僕は受験期を振り返ってみて感じられるのは、本当に家族や塾の先生たちにお世話になったなという感謝の気持ちで、それしか感じられません。よく頑張ったな~という気持ちになることもありますが、とても周りの人に支えてもらったなという感謝の気持ちでいっぱいでした。

だから、僕にとって、「幸せな受験だった」と思っています。



Mさん保護者さま「君たちはどう生きるか～中学受験入門編」

進学先:成城

中学受験という世界があると知ったのは、いまから約8年前のこと。
息子は、幼い頃から興味関心の幅が広く読書も大好き、好きなことに対する集中力もあったため、さまざまな教科を通して成長する機会となるならば、その期間を親子共々楽しめるのではと、興味を持ったのがはじまりです。

中高一貫校で学ぶ環境はとても良いと思った一方で、どのようなものか知れば知るほど、地方公立中出身の私は
「小学時代にこの勉強量は本当に必要なことなのか？」
「子どもから子ども時代を奪うものではないのか？」と疑問を持ちました。

年長から花まるでお世話になっていたこともあり、スクールFCの中学受験に関する講演があれば、自分が息子にさせようと考えているものの正体を掴みたいという変わった(?)思いで何度も参加していました。

いまでも強く印象に残っているのは、はじめに『二月の勝者—絶対合格の教室—』(ビッグコミックス)の「君たちが合格できたのは父親の経済力と、母親の狂気」という言葉を紹介してくださったI先生と、ご自身で掘られた石器を見せてくださったK先生です。

I先生のお話は非常にセンセーショナルな始まりで、「都会怖すぎる!」と正直思いましたが、加熱し続ける中学受験の現状を、数々のデータや中受高受のメリット・デメリットなどとともにわかりやすく説明していただき、シンプルに「選択肢の一つ」だとわかりました。

K先生は、「受験に備えてより良い教育を!」というよりも、ご自身が何より楽しそうに、石器や子どもたちとの関わりについてお話されるので、こんなに素敵な先生の授業がおもしろくないわけない!と感じました。

また、I先生、K先生だけでなく、スクールFCの先生方の講演会もそれぞれで、お言葉の節々に子どもを思っているの優しさが感じられ、中学受験そのものとともに、通塾への不安が払拭されたのを覚えています。
「夕ご飯をお家で」というフレーズに惹かれ、中学受験をするならシグマTECH一択でした。

年長～小学2年生で花まる学習会、3年生でThink!Think!Σ、4～6年生までTECHでお世話になりましたが、やはり中学受験の勉強となると、それまでのようにはいきませんでした。

机に向かう習慣があったとしても、これまでとは質が違い、学年が上がるごとに量も増えます。

やるべきことを迷わないようシステム化(親子で課題チェック、子どもが自分で取り組む内容を決め実行、親子で振り返り)したなかでやろうとしても、全然うまくいきませんでした。

好きな教科とそうでない教科への取り組み方が全然違い、できることを褒めようと思っても、それを乗り越えてやっつけて終えられたノートに、どう反応してよいかわかりません。

かと言って、隣で付きっきりで勉強を見るのはお互いに息が詰まる…。

いろいろと試行錯誤しているうちに、4年生も終わる頃。担任のT先生よりお電話をいただき、いまのままではTECHで続けるのは厳しいと、再度進級テストを受けることになりました。

当然の結果だな…とちょっと気晴らし(憂さ晴らし?)に本屋へ行ってみれば、

「〇〇力は家庭で育つ!」「△△力は母親次第」などなど、子どもができないことがあれば、それは全部家庭(=母親)が原因と思えるようなタイトルばかり目に飛び込む。

私が息子に中学受験を勧めたにも関わらず、上手にサポートできないからだ、自分を責めては不甲斐ない日々の連続でした。

中学受験を終えて、いま思えば、もっと初期の頃から先生方を頼って、どんな小さなことでも相談すればよかったなと思います。

でも、当時の私は、まずは息子が受験に向き合えるようにならないと、相談の土俵に上がってしまっただけは、一生懸命教えてくださる先生方にも申し訳ないと思い、相談できていませんでした。

そんな状態のまま5年生も過ぎ、6年生になったらさすがに本人も「本腰が入るだろう」と見積もっていたものの、相変わらずの日々。

何かを禁止したり、交換条件で勉強させることは嫌だったので、YouTubeやゲームは付き合い方を話し合い、お友達と遊ぶ約束をしてくれば、どうやったら勉強をする時間が確保できるかを一緒に考えました。

それでも徐々に時間の使い方が曖昧になってくるので、「なんのために受験勉強をしてるんだっけ」と息子に問い、「なんで私は中学受験させたいと思ったのか」「親のエゴではないのか」「合否がすべてじゃないと言うわりに、私はなぜ息子にやらせようとしているのか」を自問自答し続け、とにかく事あるごとに、息子は、私は、「どうしたいのか」を話し合いながら過ごしました。

6年生の1月。埼玉での入試、そして結果を受けて、ついに目の色が変わり始め、入試まで残すところあと2週間という頃、完全に目の色が変わったように感じました。それと同時に、あ、このタイミングだったのか、とも。

私はこの目の色に変わったのを、6年生から、いやもっと前から見ていたかったのかもしれない。

そのような時期にちょうど発行された1月FCだよりは、気分転換にも力強い支えにもなりました。

特にM先生の「受験当日まで伸びる」は、第一志望校の出題形式(算数)が今年から変更されることになっていた息子にとって、とても勇気づけられる内容で、ワインエキスパートの資格取得までの道のりは、息子の味方になるような言葉ばかり。親子で何度も読み返しては、「当日まで伸びる」という言葉を心のなかで反芻しました。

2月1日、私と息子は第一志望校へ。Zoom応援につなげると、TECHの先生方とともに、年長時に見ていただいたT先生からの応援もあり、その温かい応援画面に思わず涙が溢れてしまいました。

息子に泣いていると知られて、変に緊張・動揺させてはならないと思い、反対を向いて会場入りする何人もの子どもたちを見ていました。

子どもたち一人ひとりの表情を見ていたとき、合否はこれまでどれだけ頑張ったかの努力の成果だけじゃないな、と感じました。

たしかに、この日を迎えるまでの積み重ねは必要でした。

しかし、みんながこの日までに並々ならぬ努力をし、誰もが合格を祈って試験を受けに来ていることが伝わったので、もう誰が受かってもおかしくない。受からなくても、誰も悪くない。「今日はお天気も良く、息子も私も元気にここに立てている。もうそれだけで万々歳。」と思えたのです。

6校計7回の受験は、3回合格を頂き、4回は不合格でした。

最初に「不合格」の三文字を見たときは、思わずはっと息を呑みました。

でも、隣にいた息子が(内面では反応していたと思いますが)「ふーん」程度だったため、親の方がショックを受けてはならない、ましてや息子の前で反応するのは失礼だと思い、次からは無反応で労いの言葉だけ伝えようと思いました。

しかし、やはり2回目の不合格も息を呑んでしまいました。あれだけ頑張ったから報われて欲しいと欲深くも思ってしまい、目に飛び込んできた三文字に心が追いつきませんでした。次は頑張れとか、力を出し切ろうとかいう言葉は、なんだか私から息子にかけるのにふさわしい言葉ではない気がして、言えませんでした。

3回目の不合格を見たあと、第一志望校のリベンジを含めて残り2回の試験を控えた息子に、咄嗟に出てきた言葉は「今しかない瞬間を楽しもう」でした。緊張や、同じ学校を目指す子どもたちのなかでの入試で、何が大丈夫なのかの根拠もなく、心から楽しめるわけないよね…と親の立場で思いながらも、息子が中学受験できるのも今だけ、体調を崩せばそもそも受けられない、二度と取り戻せない時間を過ごすのなら、いっそのことその時間を楽しんで欲しい!と、思ったのです。翌日受けた第一志望校は合格。家族全員で泣きながらジャンプして抱き合いました。

中学受験に挑戦しようと決めた4年前からいままでを振り返ると、幼い息子と中学受験勉強に臨むときに、さまざまな負の感情に悩まされました。でも、受験勉強そのものは、私たちの生活を豊かにしてくれるものでした。家族で話せる話題が増え、旅先は歴史を学んだ場所から選び、散歩中にちょっとした季節の変わり目に気づき、知識を持って祝日や行事を楽しめ、息子が私たちにはできない問題を教えてくれ、過去問に出題された本を探しに本屋さんや図書館へ行き、正方形に切ったお餅で断面図を学んでお雑煮にし…。中学受験をしていなかったら、経験すらしていなかったことも多々ありました。

課題がやりきれなかったり、わからないことがあったり、辛いこともあったはずですが、TECHでの3年間、息子は毎回すべてにおいて「楽しかったよ」と言っていました。

6年生で、GWには無人島、夏休みにはサマースクール(サムライ合戦)と家族旅行にも行き、12月までは欠かさずお友達とも遊び、1月にも美術館や博物館などへのお出かけも、息子のやりたいと言ったことを、諦めない中学受験ができました。

また、そのようななかで、改めて「息子の人生は息子のものである」と強く思い、子どもであっても「あなたはどうしたいのか」を問い、人として尊重すること、ありのままの息子を丸ごと受け入れることの大切さを思い知りました。

さまざまなことはありましたが、息子が最後まで目標に向かって諦めず、常に前を向いて入試に臨め、一度は不合格だった第一志望校に合格できたのは、TECHの先生方が直前まで力強く支えてくださったからにはほかなりません。

4、5年生担任で6年生まで指導してくださったT先生をはじめ、6年生担任で入試が終わる直前まで寄り添って指導してくださったI先生、質問しやすい環境を用意して下さり、算数の安全基地だった個別指導のY先生、そして、過去問に丁寧にコメントして下さったり、知識を補うためのイラストやポイントをわかりやすくたくさん書いて下さったりした各教科の先生方、朝夜テックで見守ってくださったたくさん先生方には、感謝してもしきれません。とても温かく、幸せな中学受験生活を送らせていただきました。

長い長い受験体験記の最後になりますが…中学受験に足を踏み入れる前に、I先生の講演会で自分が大切にしたいことをメモしたプリントが出てきましたので、そのすべてを大切に試行錯誤しながら息子と会話し、成長し、喜怒哀楽とともに充実した日々を過ごせたことをご報告して、この体験記を締めさせていただきます。

本当にありがとうございました。

■成長する子の親の役割 (トクガとクネリトクメスル)

- ・家庭で子どもが安心できる
- ・子どもを大切に思っていることを伝える
- ・子どもの成績と夫婦の悪口を言わない
- ・塾の先生の使い方が上手い

■子育ての軸を持つ 塾や受験より優先させるものを決める

- ・中学受験を通じてどのように成長してほしいか
- 例：適切な睡眠をとらせる (塾の宿題が終わってなくても寝させるなど)
- 特別扱いしない 例：塾があるから学校の宿題はやらない、受験生だからという扱い
- 最終的に受験を関係なしにどんな子に育てほしいか
- 例：ある家庭の父親 「好きを極める。人生を楽しむ」

睡眠を大事に、ご飯を家族で食べる、やることを自分でできる子に、塾生になると幸せな気持ちになっもらえるように(今更におわりて(笑))

- ・努力が(結果だけを見たら)報われないときもある。頑張っても間に合わないときはある
- 理由：成長途上だから
- 小学生は時間の制限があるから
- 学校内容と受験内容の相違のため、学校から帰って寝るまでが持ち時間
- 「頑張ればできる」< 頑張ったことを認める」 認めた上で改善していく
- ・ゲーム・Youtubeのルール・制限時間・ペナルティを親子で決める
- Youtubeはテレビと同じではない(自己管理ができないと自分で終わりにできない)



Nさん保護者さま「息子へ」

進学先:日本工業大学 駒場

あなたは素晴らしい。

長男であり、尚かつ東京での中学受験。

すべてが私たち家族にとって、初めての挑戦でした。

終えたいと思うことは、そんな私たちをいつも右左、上下、斜め、ご指導ご支援くださった先生方への多大な感謝の気持ちはもちろん、それ以上に、毎日毎日ただ黙々と、逃げ出すことなく、最後の最後まで続け抜いた、そして終えて笑ってくれた、そんなあなたの頑張りを何よりも讃えたいと、とても誇らしく思います。

私たちが同じ小学生だったら到底できないレベルの、できる限り精一杯の頑張り
を、本当に最後までよくやり切りましたね。

なんら後悔や反省は無いと言い切れます。

あんなに小さかったのに、か弱かったのに、受験という難しい相手におしろ食らい
ついて、たくましく大きく成長してくれたあなたに、心から感謝と、おめでとうを贈り
ます。

息つく暇もなく、弟の挑戦が始まりますね。

私たちも学ぶことができました。

あなたが培ってくれたものを財産に、弟の挑戦に引き継いで行きますね。

・塾でしっかり学んでるか 課題をしっかりできているか つまづいていないか

しっかり息子を見る、応援する、 本人だけでなく親もみんなで頑張ることの強さ

・迷ったら即先生に相談 できれば1か月単位でやることと順番を明確にして、
日々の勉強計画に落とし込む 計画的な勉強スケジュールが味方になること

・復習ノート、模試の復習 繰り返すことがやがて大きな階段を登る力になること

これからも苦しいときがあると思います。そんなときはこれまで越えてきた景色を、
塾の友達や先生、私たちから浴びてきたいっぱいの応援を思い出してください。
それらを糧に、胸に、あなたは自分が思う以上に、素晴らしく、大きくなっています。
自信持ってください。

大丈夫です。

あなたは素晴らしい。

そしてこの先も。

おめでとう。

とある花まるの先生が、わが子の中学受験に直面した

その1 夫婦喧嘩から幕開け——（新5年生1月）

「だから、やるべきことをやらなければなら怒っていいけど、S（長男）が理解できないことに対して、いちいち怒らないでよ！Sが勉強を嫌いになったら、どうしてくれるの！」

久しぶりに感情を抑えきれず、食卓をパンパン叩きながら、激高して夫に怒鳴る私。

「はあ？何もやらないなら、口を出さな！」
夫も私に怒鳴り返します。

「ああ、そうですか、わかりました。じゃあ受験すると決まったからには、口も手も出さずからーだいたいね、多くの子どもにとって、割合や速さの抽象概念は、生活での経験値に結びつかないと難しいの！つまりきやすい範囲なの！私だって小6のとき、この量を①としたときのほにやらら、って問題に、①ってなんなの、もとにした場合ってなんなの、本当はちゃんと物量あるでしょ！きちんと書いて、って毎回キレていたよ！」

止まらない夫婦喧嘩に、そっと向こうの部屋に消える子どもたち。それを目の端に捉えながらも、ますます口汚くお互いを罵る夫婦…。

たまっていた鬱憤を一通りぶつけ合い、夫婦がボソボソ話す段になって、子どもたちが「終わったー？」

と見計らったように、現れました。その屈託のなさに苦笑しつつ、

「ごめん、ごめん、ちょっとフィーバーしちゃった」と小声で謝ります。すると長男が

「もうホントだよ！」

とさらっとした一言を返してきました。内心、あれ、いつの間にかだいたい心も成長したなあと驚きます。3年生までは本当に幼くて、夫婦喧嘩をするたびに傷ついた顔をしていたのに。この感じだと6年生の頃にはギリギリ大人度（自他を客観視できる度合い）も高まるか…。夫への怒りをまだくすぶらせつつ、意識の片隅で考えます。

子どもの成長は本当に早いもので、10歳以降はあつという間に精神的に成長し、親の手元から飛び立ってしまいます。中学受験はそんなわが子と同じ方向を向いてどっぶりかわれる最後の機会、と言つ方もいます。まさにわが家も同じです。思春期の空へぼわぼわ飛び立とうとしているわが子の視線を進路に誘導して、もうちょっとだけ一緒に遊んでよ、とワンチームのスクラムを組む感じかな、とイメージしてみます。

そして、冒頭の夫婦喧嘩に戻れば…言うまでもなく、長男の受験は、子はかすがい、とばかりに、いままで目をそむけがちだった夫婦の関係性の、試金石となる予感に満ち満ちています。次の日、さっそく夫が『二月の勝者―絶対合格の教室―』（ビクココミックス）を大人買いしてきました。狂気にガクブル…と笑い飛ばしながらも、ある程度の結果を求めらるならば、いままでの夫婦のあり方とは明らかにモードチェンジが必要な気持ちにさせられます。未知の領域に多少おじける気持ち

を認めつつ、受からなくても死ぬわけがなし」と夫婦と家族の第二章をちよっぴり楽しみに思う気持ちを奮い立たせる私。

さてさて、夫婦関係や親子関係は今後どうなるのか。家族がワンチームになれたとして、七転び八起き、たどり着く先にどんな「幸せな受験」があるのか。そもそもわが家にとっての「幸せな受験」とは…!?花まるの教室長といえども、理想通りには到底いかない、とある家庭のリアル中受奮闘記をお届けしていきます。

家族構成

私



東京都内の私立中高一貫女子高出身。花まる学習会 教室長で、過去には花まるグループ進学塾部門スクールFCで小～中学生の英語も教えていた。子どもが産まれてからは事務方まわりの仕事を多くしている。怒りの沸点は、夫より高いと思いたい。

夫



地方の公立高校出身。もともとは中受に批判的だったが、「学校の授業がつまらない」という長男の言葉を真に受け、じゃあ中学受験に挑戦するかと決意した子煩悩な父。在宅勤務が多くなり、以前にも増して子育てに全力投球中。

長男 S



4歳から花まる学習会に通い始めた、マイペースな小学5年生。サマースクール・雪国スクールはともに皆勤。生粋の花まるっ子。現在は中学受験を決意し、スクールFC（シグマTECH）で学ぶ日々。自宅から歩いて通える中高一貫男子校がいったんの第一志望校。理由はいつも通っている習い事の近くだから。

次男 Y



保育園児。外面がよい甘えん坊。夫婦喧嘩の次の日、机をパンパン叩きながら兄に喧嘩を売っていたのは、きっとご愛敬…。

花まる学習会 川波朋子

“とある花まるの先生が、わが子の中学受験に直面した”

その2

夏、足りないピースは埋められたか…!?
(5年生9月)



「えっ、毎日こんなに夏期講習があるの!」
「そうだよ。でも、お母さんは5年生のときもって通っていた覚えがあるよ」
「うっそ、せっかくの夏休みが…」
「何を言っているの、受験生! 夏の間は4年生でやってなかった国語と社会の問題集もやるよ!」

「ムーリー!」
「無理じゃない! (クワツ)」

…私からすると、自分で受験すると決めたくない、5年の夏なのだから当たり前、と思うが、マイペース長男のSは、受験生でも夏休みなのだから、けっこう遊べると思っていたらしい。甘い、砂糖のように甘い…! 大リーグボール養成ギブスをはめるか!? とつつこみたくなるが、ここでそういえば、と思いつく。中学受験を経験した私だが、通っていた塾の先生に、
「あなたは本番1か月前にやっと本気を出したもののね」

と受験後に言われた黒歴史を。私自身もその当時、相当なぼんやり受験生だったのだ。結局は似た者親子か、と少し口調を柔らかくする私。

確かに、よっぽど上位層の負けず嫌いの子が、夢や目標ががちり固まっている子が、いままでに似たような努力経験がある子でない限り、小学生の子どもが、はじめての受験に到達点の見通しを立てて、現状に危機感を抱きつつ、自ら足りない領域を自覚してコツコツと取り組む

なんて…まあおおかたは夢物語である。

だが、ひたすらブーブー文句を言い続ける長男Sと話していると、イライラが込み上げてくる。だんだん口調が尖ってくる私を横目で見て、夫がナイスフォロー。

「Sは4年生のときは算数と理科だけで、国語と社会は塾に通っていなかった。夏の間は遅れを取り戻さないと、いつやるんだ? 学校がある期間に自分で計画してできるのか? お母さんはSの目標に協力してくれているんだぞ」

教室で子どもたちに「ムーリー」といくら言われても、そうだよ、と受容して対話できるが、日々一緒にいるわが子だといふ感情が波立って、かわいさ余って憎さ100倍状態になることがある。そうそう、こうやって片方がキーツとなりそうときは、冷静なほうでフォローしてくれると、だいぶ助かるんだよね、と久しぶりに夫に感謝する。いままでの子育てのなかで、「両親が二人して子どもを責めない、子どもの逃げ場がまったくない状態にしない」を、夫婦の共通見解にしていってよかった…と思ふ今日この頃。

さて、Sの社会の力を強化するために、夏の間週末は、社会カルタ大会(歴史人物や都道府県のカルタ)を家族で開催した。はじめは私が優位だったのに、だんだんと夫とSの実力が

家族構成

長男 S



4歳から生粋の花まるっ子として過ごす。今年の夏(5年生)のサマースクールでは「火おしの国」に参加。「〇〇中学合格」と願うことを焚火にくべたらしいが、なんと「合格」の「格」を間違えて書いたという…まさか、受からないフラグ!? (涙)

夫



地方の公立中高出身。息子たちの成長が喜びで、Sが持ち帰るテストを解いては「まだ俺もいける」「直観では、もう敵わなくなってきたよ」と一喜一憂する子煩悩/VV。

私



都内の私立中高出身。過去にはスクールFCで小中学生の英語も教えていた、花まるの先生。子どもが生まれてからは事務方まわりの仕事を多くしている。そろそろアンカー・マネジメントを学ぼうかと思っている。

次男 Y



保育園児。外面がよい甘えん坊。最近のはやはり「おしり」。毎日100回以上言っは、このうえなく幸せそうに笑っている(50回を超えると私は遠い目)。

花まる学習会 川波朋子

追いついてきて、接戦に。そして、夏のサマチャレ(テーマ別集中夏期講習)で都道府県カルタが扱われてからは、ついにSの圧勝という展開に…。やっぱり、場の力学というか、集団授業の切磋琢磨の雰囲気のおかげで生まれる子ども集中力には敵わないな〜と悔しく思いつつ、問題集もなんとか夏休み最終日に終え、あつという間に5年生の夏は過ぎていった。果たしてこの夏の努力は、秋からはじまる外部模試の結果に反映されるのか。ドキドキするのは親ばかり。

とある花まるの先生が、わが子の中学受験に直面した

はんにゃ
般若登場

(5年生 11月)

その3



久々にカーッと頭に血がのぼった。
「なんでそんな、まったく自分のためにならない
ウソつくの、ありえない……!!」
子どもからあらましを聞き取ったあと、大声で
怒鳴り散らした。

「ちょっと聞いてよ!」
と夫へ、事の次第を伝える。

「Sがなんと3か月近くも、毎日の計算と漢字
をちゃんとやっていたら……!!」
見てよ、この穴あきテキスト!!!

目がつり上がった般若の面のごとき形相で、頭
には角が生えていただろう。背景は雷と暴風雨
だ。

発端は、SがシグマTECHの授業後に、先
生に残されてガツツリ叱られていたこと。

「ほかにやっていないのは?」

「……〇〇です」

「どうしてやらないの?」

「……夏休みが終わって……なんだか毎日やるリ
ズムが戻せなくて……。模試の成績は落ちてな
いし……やらなくても大丈夫かなって……」

長い長い沈黙のあと、泣きながら白状するS。
オンライン授業を耳半分で聞いていた私は、S
の告白に驚愕のあまり、ポカンと口が開く。毎朝、
計算と漢字の時間はとっていい

「今日は終わっている?」

「終わっているよ」
とやりとりをしていたのだ。Sと先生の話が終
わったあとに、該当のテキストを一緒に見返す。
見事な穴あき状態。やっている日もあれば、1
週間くらい真っ白な部分もある。中途半端に途
中で終わらせている日もある。クッキーをこっ

そり親にだまって食べて「食べてないよ」とウ
ソをつきつつ、口元を残して笑ってい
た2歳の頃のかわいいかわいいうSが頭をよぎる。
もし魔法が使えたらさきと「時間よ、巻き戻
れ!」と大声で叫んでいただろう。

「信頼は一日にしてならず、なんだよ。もう当分
信頼しない。全部チェックするよ」

夫にもガツツリ叱られたSは、就寝まで終始
涙目だった。

さて……数日すると、少しは冷静に物事を考
えられるようになる。考えてみれば、教室の子
だつてウソはつく。それは「ウソをついている」
という自覚がない場合もあり、深く考えずにそ
の時々都合の悪い状況を、なんとかくぐりぬ
けようとしているだけ、というときも。そして
ウソが暴かれて、「このままでは目の前の人の信
頼を失ってしまうな」「自分のためにならないな」
と感じる経験を何回かして、行動が変わってい
く。わが子だけは例外、なんてことがあるわけ
ないのだな……と自分の親バカっぷりと期待の高
さを反省するばかりだ。

ちなみに後日、大学時代の友人は

「私も中学受験時代、何のために勉強するのかわ
からなくて、宿題は答えを丸写ししていたよ。
しかも、丸写しとバレないような技を開発して、
いかにごまかすかに命を燃やしていたからね」
と得意げに言っていた。彼女は親が必死に受験
対策した中高一貫校になんとか入学したそうだ
が、その後の大学受験までの間には、コソコソ
真面目派に転向し、推薦入試で大学に入学した。

いまでは、優秀な国家公務員としてバリバリ働
いている。

経験値が足りなくて先を見通せなかったり「何
のための勉強か」を明確にできなかつたりする
段階の小学生は、ウソやごまかしが発生しやす
い、ということだろう。「ウソやごまかしは誰も
が通る道」だと思つくと、5年生のこの時期に発
覚してガツツリ叱られたということは、Sにとつ
てよかつたことなのだろう。あと受験まで1年
余り……親子の奮闘はきつとまだまだこれか
ら……。

家族構成

長男 S



4歳から生粋の花まるっ子として過す。久々にガツツリ全員に叱
られた今回。さてさていつまでその殊勝さは続くか……。

夫



地方の公立中高出身。少しでも寒くなると真っ先に「こたつを出
そう」と言ってくる。怒るときはけつこ怒るが、基本は子煩悩
パパ。

私



都内の私立中高出身。過去にはスクールFCで小中学生の英語も
教えていた、花まるの先生。最近買ったボードゲームの名作「カ
タン」は家族の中で勝ち越し中。まだまだ息子には負けたくない
……!と内心思っている。

次男 Y



保育園児。外面がよい甘えん坊。まだまだ下ネタが流行り。ヨシ
タケシンスケさんの『おしっこ ちよっぴりもれたろう』を3か月
以上、母に毎晩読み聞かせをせがむ。何がそんなにおもしろいの
かまったく理解できないが、ケタケタ笑って毎晩幸せそう。

花まるの学習会 川波朋子

とある花まるの先生が、わが子の中学受験に直面した

その4

小学校の先生が面談で絶句!
(5年生 12月)



「先生、ちょっとご相談があるのですが」
 「はい、もちろんです」
 「あのー、塾の先生に薦められて、都立中学の受験も考えているのですが……」
 「えっ、都立ですか……!? そ、そんなんですね」
 「今さらな感じもするのですが、学校の成績をここから上げるために何をすればいいか、相談に乗っていただけるでしょうか」
 「はいっつ! エーーーーーと……ではまず……」
 5年の秋冬はだんだん受験モードが強まり、模試でも志望校を書いて、順位や判定が出る時期。だがコロナ禍でほとんど学校見学もできておらず、なかなか第一志望の学校以外の選択肢を広げられていない。そんななか、F.Cの先生に薦められた都立(公立中高一貫校)の学校もいったん志望校として意識し、小学校の先生にも相談してみたのだが……。

あれ、先生、絶句しましたよね、いま。そういうえば、5年生の春の面談は、夫に行ってもらったのだが、
 「授業中に、Sくんはうとうととしていて、眠いみたいです」
 と指摘されたんだっけ、と思い出す。すっかり忘れていた厚顔無恥な私。だが、今年から担任になった若いA先生は、ありがたいことに中学受験にも理解があるとママ友から聞いている。まあ授業中に寝ている子が内申点を取れるわけがないよね、と内心恥ずかしく思いながらも、カエルの面に水のごとく、何食わぬ顔をして、話を進める。すると「まずは記述の量を増やしましょう」
 と、泣けるほど具体的にごもつともなアドバイスをいただく。
 「急に記述の質を上げるのは難しいと思うので、まずはこんなふうに、ノートに書く自分の考えや感想を、3行から5行にしましょう。そこで努力を判断します。おいおい質も目指してほしいと思います」
 手を抜いて3行でいつも終わらせているSに溜息をつきつつ、なんて親切で誠実な先生なのだ、一気に信頼度が爆上がりする。
 帰宅して夫に
 「もっ、だいぶ恥ずかしかった、一瞬、絶句されちゃったよ!」
 と報告すると
 「まあ、いままでまったく都立は考えていなかったし、学校の成績も気にしていなかったしなあ」となぜか慰めモード。いや、あなたの息子でもあるんですけどね……。Sにも「まずは記述の量を増やす」方針を言うと、「げええ、ウンでしょ」とまったく前向きではない。夫にも加勢してもらい、「F.Cの先生もお薦めしてくれたし、学校のA先生も親切にもアドバイスをくれたから、まずは言われた通り、やってみよう」と説得し、Sもしぶじ了承。ふう、なんだかなあ。早めに学校見学へ連れて行かねば。
 公立中高一貫の受験は、私立中学受験と出題の形式が異なり、必要な力もやや異なる。おそらく社会や漢字など、知識や暗記を求められる問題で点数が取れず、「考えて書く問題のほうが好き」(できるかどうかは別として)と言つSに合

わせて、F.Cの先生が薦めてくださったのだから……。なにしろ狭い募集枠の厳しい戦いなので、そもそも内申点が取れないだろうSは圏外となる可能性のほうが高い。だが、学費のことや進学後の授業内容を考えると、親から見ても公立中高一貫の受験は確かに魅力的ではある。適切な2月3日の志望校を、ほかに設定できているわけでもない、あわよくば、のチャレンジ校としていったんそのまま突き進むことにした。さて、親のこの時期のこの判断は、はたして吉と出るのか凶と出るのか……まだ誰も知らない。

家族構成

私



東京都内の私立中高一貫女子高出身。過去にはスクールF.Cで小中学生の英語も教えていた、花まるの先生。子どもが生まれてからは事務方まわりの仕事を多くしている。長男の身長が自分に迫ってきて、ついつい「ちょっと並んで」と鏡の前でまだ抜かされていないことを何回も確かめてしまう。靴の大きさはすでに抜かされた。

夫



地方の公立高校出身。数独やMENZAクイズ好き。Sの低学年時代は持ち帰ってくるレインボータイムと一緒に取り組み、「ウンだろ、レベル99解けない!」「オレ解けたぜ!」と、Sと一言一葉していた子煩悩パパ。

長男 S



4歳から生粋の花まるっ子として過す。夏に声変わりからはじまり、秋にかけて、だんだん声が低くなってきた。身長も毎年10cm近く伸びている。身体はひよろデカイ、のんびり屋。

次男 Y



保育園児。外面がよい甘えん坊。腕の皮ふに唇をつけて息を出すと、おならのような音を出せることを教えてしまつたら……「ねえママ、どっちが汚いおなら(のような音)を出せるか勝負しよう」とニヤニヤしながら日に何度も言ってくる。

花まる学習会 川波朋子

とある花まるの先生が、わが子の中学受験に直面した

その5

お隣さんちにあやかりたい！
(5年生2月)

2月2日の夜、マンションのゴミ置き場から戻ってきた夫がある報告をしてくる。

「あのさ、古紙回収の場所に、中学受験のテキストプリント一式が、紐でしばって山のように出されていってさ。たぶん、お隣のRくんのところだと思っただけど…」

「えっ…」

二人でしばし、顔を見合わせる。隣のRくんは小学6年生で、今年、受験生だ。

「…山!? まさかもう受験終了ってこと? きつと2月1日の第一志望校に受かったってことだよな…そして、結果が出てすぐ、テキストプリント類を全部「ミ出し!? ひょえっ…」

「ってことは、しばうく学校を休むって言うんだけど、Sは明日からまたRくんと登校できるか。2月1日からの一週間は、親も送迎やらなんやらで仕事をやりくりするって職場の先輩が言っていたけどなあ…すげえなあ」

「おはよう! 受験終了了?」

「そう。今日からまた学校に行けるよ」とあっさり答えてくれた。やはり2月1日の第一志望校に受かったという。

「わあ、おめでとう! すごい、さすがだね!」と心から祝いつつ、来年の今頃に思いを馳せる。はたしてわが家はこんなにも晴れやかに受験終了を迎えられるのか、そうではないのか。

いつもおっとり優雅に話すRくんのママだが、そのあまりの潔さと仕事の速さに脱帽するばかり。さすがでございます、と拝んでいろいろと

あやかりたい気持ちでいっぱいだ。Rくんのご家庭はお姉さんもいて、4年前に中学受験を経験していることも影響しているだろうが、私だったらきつと、名残を惜しんでそんなにさっぱりすっきり切り替えられないだろうなあ…。

さてさて、受験まで正味一年だが、スクールFCのシグマTECH部門では、「夕ご飯をおうちで食べる中学受験」を掲げている。5年生までは週末はリアル授業でモチベーションを維持しながらも、平日は通塾の必要がなく、オンラインですべて授業を受けることができた。通塾時間の大幅な短縮だ。下の子もまだ手がかかるし、塾弁当を用意できる自信がカケラもなかった私にも非常に優しいスタイルである。

取り組むべき学習範囲も明確で、一週間の課題を、自分でスケジュール表に落とし込むことができるようになるまで、5年生の初期こそフォローが必要だったが、慣れてくれば、一人でできるようになった。集団授業は週2日だし、必要な学習部分を厳選してくれるおかげで、課題の量もそこまで多くはない。本人が続けたがったサッカーやテニス、ピアノなどの習い事も、曜日をやりくりして、続けてくることができた。

そしてわが息子ながら、時間のやりくりがうまくなくなってきたようにも思う。朝に早起したら、好きなことをしていいよ、と言っていたら、この一年は、朝6時過ぎには自然に目を覚まし、好きなゲームや動画を見るように。ゲーム、パワーでの早起きはいかかなものかとも思うが、朝の7時に計算・漢字だけはマストでやっているの、まずは早起きの習慣が大事、と黙認中。

家族構成



私

東京都内の私立中高一貫女子高出身。過去にはスクールFCで小～中学生の英語も教えていた、花まるの先生。子どもが生まれてからは事務方まわりの仕事を多くしている。夫と協働体制で、受験も子どもの思春期も乗り切れたなら、子どもが巣立ったあとも、よき関係を築けそうな気がする今日この頃。



夫

地方の公立高校出身。もともとは「なんでそんなところにお金かけるの、東京って変じゃない?」と中受否定派だった。近くの公立中学校に、スポーツ系部活の選択肢がほぼないことがわかり、「中学生男子は身体を動かしたほうがよい」という信念に基づき、俄然、中受に前向きになった。



長男 S

4歳から生粋の花まるっ子として過ごす。最近、真冬でも半そで半ズボンを押す通すという、よくわからないこだわりを発揮する。大昔の同級生にもこういう子っていたよなあ……昭和か! と母は突っ込みたくなる。



次男 Y

保育園児。外面がよい甘えん坊。なんだかんだ遊んでくれる兄が大好きで、なんでもまねっこする。ちょっかいを出しては、返り討ちにあり、よく泣きわめいている。

花まる学習会 川波朋子

ちなみに模試の偏差値は、乱気流のように安定せず、回によって激しく上下している。昨年の夏に多少テコ入れしたつもりですが、いまだに点数が取れない…。ただし、よいときの偏差値を信じれば、Sがここに行きたいな、と言っている第一志望校は、合格圏内ではある。最難関校を目指しているわけではないし…と、結局は親も子どもとこかまだのんびりしている、5年生の冬。中学受験での第一志望校合格率は約3割と言われていて、未来はまったく見通せない。だが、できうるならば、来年の今頃、お隣さんちのようになれますようにと切に祈る2月初旬であった。

とある花まるの先生が、 わが子の中学受験に直面した

その6 あと半年もない…！
(6年生9月)



あつという間に、6年生の夏が終わってしまっ
た……。なぜだか不安が込み上げてくる。とい
うのも、思いっきり夏をエンジョイ(死語?)して
しまったからだ。夏期講習の合間をぬって、1泊
ではあるが家族でのキャンプも楽しんだし、Sを
サマースクールへも行かせてしまった。親も子も
受験本気モードになりきれしていないまま、夏の天
王山を迂回してしまつたような気がしてならな
い。

いやいやそれでも、決してやるべきことをやっ
ていないわけではない。6年生になり、平日の授
業もオンラインではなく、通塾スタイルになつ
たことで、いい意味でSのスイッチも少し切り替
わつたし、さらに増えた課題量もこなしてはいる。
朝の計算・漢字も継続してできている。夏休みも
ほぼ毎日の夏期講習に通い、朝から晩までのサマ
チャレ(集中特訓講座)で学習体力もついてきた
ようだ。たまりにたまった小学生新聞も、夏の間
に切り抜きだけは終わった。家で行った都道府県
カルタ大会では、親はもはや惨敗だった。気をつ
かわれて、「次はオレが札を読み上げるから、父
ちゃんと母ちゃんまで競えば?」とSに言われたと
きにはがっかりしてきた。そう、ほかの子の成長も
著しいだろうが、Sも成長している……。のだ。

4月からの変化では、Sは「スーパー算数」の
講座へも月2回参加するようになった。親として
は、習熟やテクニックに主眼を置きがちな受験算
数にとどまらず、算数や数学という学問のおもしろ
さも知ってほしいという気持ちで、送り出して
いる。各校舎から算数好きが集まってくるので、

「すげー頭がいい奴らがいっぱいいる」と、周囲
に圧倒される場面も多いようだ。それでも「今
日はなんとか戦えた」という日もあり、Sにとつ
て大いに刺激になっているようだ。

親もやつと、オンラインサイトでの学校説明会
申し込みのコツがわかってくる。5年生のときは
負けっぱなしだった予約を勝ち取れるようになって
た。オンラインで申し込みができるのはありがたい
が、先着順なのはいいかなものか、と正直思っ
つ。申し込みを忘れないようにタイマーをかけ、懐か
しの時報を聞きながら、オンタイムでサイトの更
新ボタンを押し、申し込み情報を必死でコピーべし
ていく。Enterボタンを押して、「よし取れ
た!」という日もあれば、「うわ、もういっぱい!」
とさすが引き下がる日もあるが、やつと勝率が
上がってきたのだ。人気アイドルのコンサートチ
ケットかと疑うほどの、1分1秒を争うこの激闘
受験生の親のみなさんがやっているかと思うと、
本当に頭が下がる。

コロナ禍ということもあって、人数も限られる
人気校の予約がまったく取れず、学校見学も体験
授業も行けていないままだった。夏終わりにま
でに何校かめぐることができた。もっと早くにめ
ぐっておきたかった……。と思わなくもないが、滑
り込みセルフと考えよう。実際に行ってみること
で、子どもと学校の相性も肌感覚で見極めること
ができた。

さて、9月ここからはもう待ったなし。いま
までの通塾にプラスして、週末の特訓講座の開始
過去問の開始、毎月の模試と振り返り、文化祭見

学、保護者会&面談、受験校の最終決定……とや
ることは目白押しだ。子どもも忙しいが、親のタ
スクもさらに増える。親から見ると、相変わらず
マイペースなS。模試の成績も上がったたり下が
たりと変わらず忙しい。いろいろな不安はつきな
いが、あまり心配しすぎても仕方がない。習い事
もすべて辞めるかお休みし、受験モードに入る準
備は整った。最後まで一緒に走り抜ける覚悟を決
める、9月初旬。

家族構成



私

東京都内の私立中高一貫女子高出身。過去にはスクールFCで中
中学生の英語も教えていた。花まるの先生。子どもが生まれてから
は事務方周りの仕事を多くしている。夏、ついに5に身長を越
され、悔しいような嬉しいような寂しいような眩しいような……
不思議な気持ち。



夫

地方出身の子煩悩パパ。Sが持ち帰る「スーパー算数」の問題群
を一番楽しんでいる。「すげえな、これ解ける小学生いるの!？」
とSと解法を確かめながら、得意な分野をつまみ食い。



長男 S

4歳から生粋の花まるっ子として過ごす。毎年行っていたサマ
ースクールも最後ということで、かねてから希望していた「無人島
サバイバル」コースへ、魚が釣れずに醤油メシ……はなんとか回
避できた模様。「楽しかった!」と輝く笑顔で帰ってきた。これで
きつと満足して受験まで頑張れるはず……!



次男 Y

保育園児。ある日の朝食時、ニュースを見て時事ネタを話してい
たら、突然「ウクライナ情勢はさ〜」とまるで解説するかのよう
な声を上げたY。家族みんなで顔を見合わせて、大爆笑。聞きか
じりの単語で、なんとか自分に注目を集めようとするお調子者。

花まる学習会 川波朋子

とある花まるの先生が、わが子の中学受験に直面した

その7 下がる偏差値とパンドラの箱
(6年生11月)



秋は怒涛の模試シーズン。オープン模試の結果を見てみると、なんと、9月、10月、11月と偏差値が5ずつ下がっている……。いままでは乱気流だったのが、この時期に下がり続けるとは、なにかのホラーだろうか!? サメ映画の効果音を思い浮かべて、しばらく現実逃避してみよう。一息ついたのち、志望校も考え直しかないと、さっそく担当のT先生に面談を申し込むことに。

すると、T先生は開口一番
「やっちゃいましたね〜くん」と穏やかな顔でほほ笑んだ。え、そんな楽観視できる状態ですか、これ!?

「いつもは取れている問題ですけどね〜」ジェントルマンなT先生のいい声に、ささくれだった心が少しずつ癒されていく。確かにオープン模試は散々だが、学校別の模試では、60%合格率が出ているときもある。そして9月、10月の段階では、まったく合格圏内にひっからなかった過去問演習も、11月に入り、ようやく合格最低点を超える年度も出てきた。相変わらず過去問解きなおしのコメントは、「国語の論文を頑張る」などとの外れで、「いつまでに、何を、どう、頑張るのさ!」と力いっぱい突っ込みたくなる状態だ。面談の結果、迷いつつも、いったん志望校群はこのまま変えないことになった。

面談後、しばし考える私。スケジュール管理と体調管理に専念してきたが、今後も勉強の中心には手を触れないべきか、少しは手を出すべきか……。一度でも、できていない中身まで見ちゃったら、どうしても手や口を出したくなるよなあ。

ふと、Nちゃん親子のことが頭をよぎる。保育園の頃から仲良しのNちゃんは、Sにとっては幼馴染の女の子である。まっすぐ素直で、特訓が大好きで、いつでも全力投球。Nちゃんのママとは、母たちの息抜きとして、先日おしゃべりしたばかり。

志望校の決め方は、ご家庭の方針で本当にさまざまだが、Nちゃんのおうちは、4年の頃からいくつもの学校をめぐった結果、ミッション系の女子中高は合わないと思つたようで、共学&大学付属校に志望校群を定めていた。そんなNママいわく、「中学受験は、後ろにいる、大人の勝負でもあるわよ!」と。確かに中学受験にはそういう一面もある。夏まではスイミングの全国大会参加と受験勉強を両立してきた、頭のよいNちゃんだが、「応仁の乱」の漢字をなぜか先日間違えたという。暗記科目は特に、スキマ時間を使って繰り返し一問一答ができるように、派生分野も含めて、母が取捨選択しているとのこと。似た者タイプで努力家のNちゃん親子なら、このまま受験終了まできつと二人三脚で突っ走ることだろう。

「焦つた親が急にいらんことをはじめる」とはよく言われるが、さてわが家はどうか。あとから後悔するよりはと考えた拳句、恐る恐る過去問演習のSの回答を見ることにした。結果、もうすぐ12月なのに、このレベル!? と愕然とすることに。やはりというべきか、パンドラの箱を開けてしまった気分だ。たとえば、社会の回答の一文が長すぎる。二百文字を句読点なしで書くなんてウンでしょ!? めまいがする……。

「えっこれぞ、主語と述語が一致しなくなるし、短い文に区切って書いたほうがいいよ」ちょうど塾から帰ってきてごはんを食べるSに話しかける。が、疲れていたのだろう。「え、なんで」と話を聞くことにしなう。

「いや、だから……」押し問答になりかけ、しまいにSは「オレはこれがいとおもっているのー!」と声を荒らげはじめる。つい私もイラッとして、「こんなんじゃ受からないよ!」と、禁句がど元までせり上がってくる。が、どっぴかこうにか、

我慢・がまん・ガマン……。一呼吸おいて、お互いが疲れている夜に話す事柄ではないかと反省。マイペースなSといえども、思春期に入りかけ。親に上から言われると、つい反発したくもなるだろう。私だつてそうだった。あー、失敗、失敗。この件は、私からではなく、FCの先生から言ってもらつて解決してもらつことにした。

さて、ガッツリ入り込むほど、親目線では焦りがつづいてくるこの季節。ついつい、足りていなさそうな分野の問題集をネット検索してはポチリたくなる衝動が湧き上がってくる。手元にある問題集を繰り返したほうが効果的だろうから、実際に取り組めるかは別だけれど、と言い訳しつつ、検索の手を止められないまま、11月の暗夜は更けていく……。

家族構成

私



東京都内の私立中高一貫女子高出身。過去にはスクールFCで小中学生の英語も教えていた。花まるの先生、アンガーマネジメントの「イラっときたら6秒間数える」を実施してみているが、毎回うまくいくわけではないのが困ったところ……。

夫



子煩悩/ひ。算数は東京出版の『中学への算数』なども買い込み、ペラペラめくっては、解けそうな問題を一人で楽しんでいる。点数が取れるかどうかは別として、Sがまだ算数好きでいられるのは、夫の影響かもしれない。

長男 S



4歳から生粋の花まるっ子として過ごす。志望校は、部活・家からの近さ・本人の希望・学校理念の魅力・偏差値の5点で最終決定。変わらず22時就寝、6時起床で身長がグングン伸び続けている。

次男 Y



お調子者の保育園児。なくて七癖。寝る前は母のひじをコネコネコネコネ……ひたすら触っている。きつとあともう少しと思いつつ、はや4年。終わりは唐突に訪れそうな予感。

花まる学習会 川波朋子

とある花まるの先生が、わが子の中学受験に直面した

その8 もしや受験撤退!?(6年生12月)



12月頭のある夜、運動不足解消のために、家族4人で近所の公園へ走りに入った。ポツポツとした蛍光灯だけが、公園のグラウンドを照らす。しばらく走っていたSが、ペースダウンし始め、すでに歩いていたら私に追いつく。寒いね〜なんて話題のあと

「いよいよ受験が近づいてきたね〜」と水を向けると、Sがポソッと言葉を吐く。

「…もう受験さ、いつ辞めてもいいんだけど」「えっ!?!」

「なんかもう疲れた」

「え!? ええー!? だって…えっ、だって…5年になるときに、Sがやるって決断したから…みんなでバックアップしてここまで来たんだけど…」

「だって、こんなに大変だと思わなかったんだ…なぞペーの延長の算数だけかと思ってたんだよ。四科目もあるなんて大変すぎる。H(仲の良い友人)も公立中だし…」

「えええええ、ウソでしょ」(絶句)

心の中では(いまさら、何を言っているのー! 課題も倍々になるって説明したよー!)と言葉が溢れつつ、いつになくポソポソしゃべりのSの言葉に動揺して、「そっかあ…そっなのかあ…ちよっと…パパにも相談してみるよ…」

としか言葉を返せない私。そうこうしているうちに、次男のYが割り込んできて、その日は言葉を交わすこともなく、帰宅。ぐるぐるしたまま子どもたちは就寝時間。

夜、夫に相談すると、あっさり返答が。

「少し前からよく言っていたよ、風呂で」

「えー、早く教えてよ! なんて返していたの?」

「大変になってきたからな、その気持ちはわかるけれど、ここまで来たらもうちよっとだから、頑張ろうって」

「な、なるほど…Sの反応は?」

「まあ、そうだけとさ〜みたいな感じ」

…ここで選択肢は2つ。

①「家族会議を開く」

Sの言い分を聞き、今後の方向性を決めていく。気持ちを切り替えて中学受験続行か、もしくは勇氣ある撤退(高校受験へ回る)か…。

②「おごとしなさい」

気持ちを受け止めつつ、おごとしにはせず、応援し続ける。子どもだって、モチベーションは上がり下がりする。ましてやSにとつて、はじめての試験といつてもいい場面。課題や過去問など、毎日やるべきタスクに追われて、朝から晩まで自由時間もほとんどなく、泣き言を言いたくなる状況なのは確か。

夫と話した結果、よくもわるくもまだ精神的に幼いSの内面を考慮し、我々の希望も加味して、②「おごとししない」路線で行こうとなった。なんだかんだ「やるぞ」と言うのと、「え〜」とか言いながらも素直に机に向かっているし、我々は引き続き応援するスタンスでよいのではないかと。一緒に最後まで頑張った結果、「終わりよければすべてよし」になる可能性を信じて。

家族構成

私



夫



長男 S



次男 Y



東京都内の私立中高一貫女子高出身。過去にはスクールFCで小中学生の英語も教えていた、花まるの先生。ふと、ニュースを見て家族で「これってこういうことだよ」と話せるようになったのも、Sが中学受験の勉強をしたおかげだな、と気づく。佳境のこの時期、勉強面はどうしても気になっちゃったときだけ、ほんのり口を出さようとしている(加減が難しい…)。

子煩悩パパ。たまにSと一緒に風呂に入って、男同士のバカ話をしている模様。Sが物語文の内容に共感できず、まったく点がとれないのを見て、「小学生男子に、女子の間のいざこざや感情なんて、読み取れるわけじゃない」とあっさりしたもの。本番で女の子が主人公の物語文が生まれようにな…と切に祈る。

4歳から生粋の花まるっ子として過ごす。国語の過去問を解いていて、時折「この論説文、おもしろいんだよ」と教えてくれるようになったことも、成長の一端。物事の新たな見方や知識をインストールする「学び」が「おもしろい」と思える感性が、Sのなかに育っていることが喜ばしい。

お調子者の保育園児。夕飯時は「納豆いやー」とわめくが、「一緒にお兄ちゃんを応援しよう。ネバネバ(身体にいいの!)と主張する私に、ムリヤリ食べさせられている。

さて、引き続き頑張っているSに、何かができることはないかと考えた結果、Sの集中力が上がるような食べ物というところで、向かった方向は、食のバックアップ。主食の炭水化物のほか、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル、カルシウム、鉄分をできるだけ3食全部で提供、というのが基本路線。そして血糖値を下げないために、補食も準備。料理下手な自分には正直きついが、できるところから。振り切れた私につきあわされているSは、毎晩の納豆に渋い顔…。

1月の校の受験まで、あと正月1か月。受かっても落ちて、Sのためのよい時間にしたいたい、と祈るような気持ちが湧き上がる12月。

花まるの学習会 川波朋子

とある花まるの先生が、わが子の中学受験に直面した

その9

心まで乱気流
(6年生1月)



年が明けた。年末年始は怒涛の冬期講習や正月特訓。Sもようやく受験生になってきたのか、年越しテレビを見たいと言ったこともなく、机に向かう普通の日として年末年始を迎えた。

私は急に思い立って、1月入試が始まる直前に、学問の神様がいる天満宮に、Sを連れて合格祈願へ。お参りでにぎわう境内は、紅白の梅もすでに咲いていて、よい香り。祈祷で読み上げられた志望校がSとかぶっている男の子もいたが、気にならず、気にしない。

昔、自分も手にしていた学業成就の鉛筆の格言は、「あせらずたゆまずおこたらず」「一歩一歩進め」など変わらない。いまも同じように受験生を励ましているなんて、と感慨深く思っていたら、目を離れたすきに、夫と子どもたちがおみくじを引いていた。心臓に悪すぎる。Sは大吉だったとニコニコ。Yは小吉だったと涙目。一喜一憂したら、何かのフラグが立ちそうだから、もはや何も言えないと、アルカイックスマイルでおみくじを結ぶ様を見守る小心者の私。

さて、1月最初の受験校は、夫に送り迎えを頼んだが

「まったく緊張しなかった。模試のほうが緊張したかも」

とさわやかに帰ってきたS。緊張でガチガチは困るが、まったく肩に力が入らないのもどうなんだろうと首をかしげなくなる。川沿いで、なんかのんびりしているいいんだよねと、夫もSも気に入って、第4志望に設定した学校だ。

結果は、無事に合格をもらうことができ、まずはほっと一息。WEBでポチっとすると、いきなり合格不合格が出る、いまだときの発表形式にドキドキしたが、幸先のよいスタート。

1月の2校目は、チャレンジ校。遠くて実際は通えないが、お試し受験に落ちることで、Sに危機感を抱かせて奮起させるために受ける。事前にFCの先生と「1月は1勝1敗で行きましょう」と作戦を相談してのことだ。

大きな会場で大勢の親たちとともに、子どもをひたすら待つ時間は何とも言えず：親子の数だけいろいろなドラマがあるんだろうなあ、とせつないような気持ちでまわりを見渡す。あまりにも待ち時間が長かったためか、試験を終えて列になって出てくるSを迎える頃には、ああ、うちの子と同じような、半そで半ズボン族は、令和の時代にもまだ生き残っているんだな、と見当違いの感想を抱く。出てくる男の子のうち、50人に1人くらいは、半そで半ズボン。1月のこの寒さで、よくまあ。

結果は、目論見どおり、不合格。すっかり声変わりも完了した低い声で、FCの先生に不合格を報告する電話の声は、場違いに明るく軽い。

1月後半、ここから、Sのモチベーションはダウンしていった。インフルエンザもコロナウイルスも流行っていたので、迷った末に学校は休ませたのが、Sには凶と出たようだ。毎日、家と塾の往復。息が詰まるようで、「あとちょっとだから」と持ちあげると、立てた予定はなんとか消化するが、ふとした瞬間に、後ろ向きな言葉を毎日のようにこぼす。しまいには「もうこ受かったし、受験終わりですよくない?」と言いつつ。もともとあまり勝ち負けにこだわらず、マイペースなところが長所とも言えるが：これには私もがつくりした。

たまたま電話で話した友人に、衝撃をこぼしたら「ゴールの共有がSとできていなかったんだね」

家族構成

私



東京都内の私立中高一貫女子高出身。過去にはスクールFCで中学生の英語も教えていた。花まるの先生、わが家に神棚はないので、合格祈願のお札をよさそうところへ飾ったが、固定が甘く何度も落ちる…。自分の揺れる心は、いくつかの中学受験小説を読んで慰める日々。

夫



地方の公立校出身。コロナを経ておうち時間が増え、家事も育児もこなせるようになってきた子煩悩/ひ。1月、2月は有給を使って、私と交代で息子を全力サポート。

長男 S



のんびりマイペース長男。1月末の大寒波。ペランダのバケツに張った水に、せっせと水を足しながら育てていた。透明度の高い氷が分厚くできて、小学生新聞に載っていたあれだ！と嬉しそう(冷凍庫に比べて、ゆっくりと凍るから、空気などの不純物が含まれず白く濁らない)。

次男 Y



お調子者の保育園児。1月31日の夜「お兄ちゃんは明日すこく頑張る日だから、食後のイチゴはお兄ちゃんに多めにあげて応援しようね」と言ったが…寝る直前まで、なんでお兄ちゃんだけ…と不満たらたら甘えん坊。

とぐうの音も出ないコメントをもらう。昔の少女マンガだったら、大きなギザギザの矢が胸に刺さり、ガガーンと、顔半分に思いつき斜線がかかっていることだろう。子どもにつられて親の気持ちも乱気流のように上下しているいま、正論は威力がありすぎる。家庭のなかで、ゴールを共有し続けるって、なかなか難しい！：家族会議を定例にするのがよかったのかなあ…とつい泣き言が浮かぶ。ああせめて子どもには、この動揺を見せまい。

花まるの学習会 川波朋子

さて、困ったときは塾へ。先生に相談して、自習室にSを誘ってもらい、モチベーションを上げてもらうことにした。おかげでやや持ち直したが、こんな調子で、本命(のはず)の2月の受験はいったいどうなる…!?

とある花まるの先生が、わが子の中学受験に直面した

その10 最後まで夫婦喧嘩…
(6年生2月)



2月1日朝、4時半に目が覚めて寝られなくなる。夢見が悪い。海外旅行をするのに、パスポートと財布はあるものの、洋服を入れたカバンがなく、空港の税関で冷や汗をかいて右往左往するという夢。なんてこった。熱い紅茶を飲んで、夢の残滓を振り払う。

いつも通り起きてきたSは計算と漢字のルーティンをこなし、いつも通り朝ごはんを食べた。早めに2人で家を出る。もう私の背丈は越したくせに、駅までの道すがら、縁石に乗って少しでも高いところを歩こうとする。低学年のときから変わらない姿に気が抜ける。

最寄り駅で電車に乗ろうとすると、小学校の担任の先生にばったり出会う。なんとという偶然。「頑張ってた」という声に見送られて、電車に乗り込む。都内の2月1日の朝、確かに親子連れが多い。受験校の敷地に入る前に、FCの先生方の入試応援Zoomにつなぎ、声をかけてもらう。

「FCの先生だけじゃなくて、サマーで会った先生も声をかけてくれたよ」とSは嬉しそう。帰りには、豚骨魚介ラーメンを食べ、士気を上げる。1月校で行きたいところに1つ受かったので、2月1日の午後入試はパス。明日に備えて、寝る直前まで社会などの暗記項目を見直す。

2月2日朝、持ち物を再チェックしていたときに、不穏な末尾「794」の受験票の、文字がややかすれているのが気になった。夫に「これ、もう一度プリンターで出さない?」と言ったとたん

「オレはこれでいいと思ってる!」と喧嘩腰。その後、売り言葉に買い言葉が止まらない。なんで2日の朝にこんな喧嘩になるの…。我々、親として最低では、と冷静な自分はコメント

トしているが、吹き出てくる感情に引きずられてしばし、小競り合い。受験票の件は読めないほどではないので、しぶしぶ自分の主張を抑えることにした。この影響で2日の結果がよくなかったら、と落ち込む…。

2日の受験校にSを送り届け、今日もカプフェで仕事。さて集中していたらあつという間に、1日受験校の可否が出る時間に。結果は：不合格。信じられない思いで、何度もID/Passを打ち込み、可否を確かめてしまう…。夫からは「残念でした、次に期待」と短いLINEが。「そうだね」と返しつつ、「もう少しあの単元をやつていれば…」といまさらどうしようもない、たらればや、合格していたらあつたかもしれない未来をグルグル考えてしまう。思いのほかショックを受けている自分にショックだ。迎える時間まで、仕事に逃避する。

Sには事前に、3日までの受験が全部終わつてから、1日と2日の結果を伝えて4日以降の動きを考えようね、と伝えていた。本人は、FCの先生に最後にもらった歴史の一回一答からめっちゃ出題された、と興奮して帰ってきた。暗い顔は見せないようにする。

夜、2日の受験校の可否発表を見る。夫はダメだったら態度に出ちゃいそうとのことだったので、一人でボチる。番号を一覧表から探す形式で、あれ、見当たらない…。え、まさか…。もう一度、深呼吸をして見直す。末尾「794」の受験番号が…あ、あつた…。うれし涙のほうになってよかったあ…。問題を解いているSを横目に、一人でゆっくりにお風呂に入って脱力。第一希望群の学校に受かった喜びと安心がじわじわ込み上げてくる。

2月3日、都立入試の日。あわよくばの記念受

験の気持ちでSと夫を見送る。お昼ごはんはSの大好きなピザ。1日・2日の結果を伝えると「もう受けなくていいんだ、終わった!」と雄たけび。FCの先生に結果報告をしてねぎらいをもらっやいなや、半年ほど我慢していた新作ゲームに飛びつくS。ハイハイ、もう好きさだけやるといいさ。

都立の発表は1週間ほど先なので、これにて受験終了。夫婦喧嘩ではじまり、夫婦喧嘩で終わった気がするわが家の中学受験…。なんともしょっぱい気持ちになるが、これはもう、流行りの(??)ケンカツプルですと宣言するしかないだろう…。張りつめていた糸がゆるやかにとけていった、わが子の中学受験最終日。

家族構成

私



東京都内の私立中高一貫女子高出身。2日の夜のお風呂あがり、私がニコニコしているように見えたらしく、ああ受かったのかなとSは思ったとのこと。女僕にはなりきれなかった残念な母。

夫



地方の公立校出身。2日は落ちたり受かったり、アドレナリンが出すぎたからか、その夜はあまり寝られなかったとのこと。意外と繊細!?

長男 S



のんびりマイペース。2月受験校は、最後までどのプランにするか親は揺れたが、「やらないで後悔するより、やったほうがいいじゃん」というS自身の言葉で、全落ちの可能性もありつつ、上位プランに挑戦することになった。

次男 Y



お調子者の保育園児。新年のお願いことは、「6年生になりますように」。いますぐ、Sに身長も中身も追いつきたいよう。「Yが6年生になる頃には、Sはもう大人かな…」とコメントすると、「うそであ…」と涙目。

花まる学習会 川波 朋子

とある花まるの先生が、わが子の中学受験に直面した

その11

プチ振り返り…
(6年生2月)



受験終了日翌日は晴れ。

「あー、全部片づけたー!」

と私の欲望が爆発。家のあちこちに散らばっている山のような参考書やプリントを、

「受験が終わったら、焚火ですべて燃やそう! (わが家の) お焚き上げじゃー!」

と息巻いていたのだが、ちゃんと調べてみたら、野焼きは法律違反……。たしかに煙や舞い上がる灰が迷惑か……。がっくりな気持ちで奮い立たせ、

ゲームにかじりつくSのお尻をけり上げて(比喩)、参考書やらプリントやらをすべて縛り上げ、マンションの古紙回収置き場へ往復させる。

そして、河川敷のデイキャンプエリアで焚火をした。炎の揺らめきを無心で眺めていると、ここ最近の緊張や疲れがじわじわとほどけていくようだ。2月にしては暖かい日差しと川の流れのきらめき、青い空に、つい目を細めてしまう。ほけーつとテトックスを味わう。子どもたちはサッカーをしたり、周囲を探検したり、焚火のための流木を集めたりとせわしないが、私はいつものように焚火の前を陣取り、動かない。火の番人はゆずれないのだ、完璧な焼きイモのために。

でき上がった焼きイモは自分史上最高のウマさ。石焼きイモにも負けない、ねっとりとした甘み。ドヤ顔で、Sに振る舞いながら、合間にプチインタビュウをする。

「Sにとって、どうだった、受験? なんだかんだ最後までやったけど」

「えー…だるかった」

「はい!」

「えー…だつてさ、復習とかさあ。復習とかがなければ楽しいよ。新しいことを習うのは楽しいからさ。でも過去問もそうだけど、何回も同じこと

やるのは……」

(いやいや、受験は完成度を上げるのが大事なんだよ。最後までこのマイペースぶりと、精神的な幼さは影響したなあ。でもまあ、学びを嫌いにならなかったのなら結果オーライか。)

「受験して、成長したなあと思うところはあある?」

「うーん…考えなしにはほーつとすることがなくなったかな」

「うん? どういう意味?」

「考えたうえでほーつとするようになったり、やるべきことが終わってからはほーつとするようになったりした。あと字が少しきれいになった」

「そつなんだ」

(自分なりに時間を決めて動けるようになったというのかな。子どもがほーつとする時間も創造性にとつて大事だと言うし。もつとほかに成長点はないのかと言いたいのだが……。)

「自分のなかで、勉強へのやる気スイッチが入ったのはいつ?」

「夏ぐらいかな」

「え、うっそ、まったく気がつかなかった……」

「いや、それまでよりはちゃんとやるようになってたよ。量も増えたし」

「うーん、そつが。復習ノートを自主的にやりはじめた1月末かと思つたけど、本人にとっては違うのか……。」

さて、2月9日の都立発表は残念な結果だったが、記念受験なので想定通り。夫とSと話して、進学は最初に受験するきっかけとなった、緑のある学校に決めた。Sとの相性と、家からの近さを考えて。そこから2〜3月は止まっていた時間が動き出すかのように、休日に予定が入りまくる。

家族構成

私



東京都内の私立中高一貫女子高出身。ぐんぐん育ちゆく長男と甘えん坊次男に振り回される日々。子どもたちが巣立ったあとの夫婦関係に、一抹の不安を感じている……。最近「喧嘩するほど仲がいい」と聞き直るしかないのかなと思つている。

夫



地方の公立校出身。結局Sが受験したのは全部で5校。どの学校もそれぞれに特色がある。ステキな学校だった。Sの2月1日校が残念だったことに納得がいかないようで、受かると思ってたんだけどな〜と、こっそり「たれば」を私にこぼす。

長男 S



中受の受験率は7割、進学率は5割程度の地域に住んでいるが、お友達が進学する学校の情報を何一つ正確に持ち帰ってきてくれない、のんびりマイペース屋。たまに聞いてきたと思いきや、学校名が違っている……。私のママ友情報網は狭いんだから、本当にお願ひしますよ、もう……。

次男 Y



保育園児。2月のバタバタのなかで、同級生の子から手作りチョコレートもらう。「わ、1か月後のお返しどうしよう!」と頭がいっぱいの母を横目に、ひとりじめして勝手にチョコを食べつくす、スイーツ男子。

諸々の学校の手続き、入学説明会、仲のいい友達との受験お疲れさま会、祖父母×2との受験お疲れさま会、早めの謝恩会、お礼参り、次男Y待望の家族のお出かけ×2、卒業式、卒業旅行、最後の雪国スクール、入学準備……。

タスクが山積みで、ゆっくり振り返るヒマもないくらい慌ただしいが、直前のコンディションからは、2月校全落ちも覚悟していたので、母の奥底の本音は、ただ一つ。「朝から夫婦喧嘩しちゃう日に受かってくれて本当にありがとう……。S、よく頑張った!」

花まる学習会 川波朋子